
湯河原町緑の基本計画

《素案》

令和7年11月

湯河原町

一目 次一

序 章 緑の基本計画に改訂にあたって	1
1. 緑の基本計画改訂の背景と必要性	1
第 1 章 計画の基本事項	2
1. 緑の基本計画とは	2
2. 緑の基本計画の位置づけ	2
3. 計画の枠組み	2
4. 対象とする緑	3
5. 緑の有する機能	4
6. 緑を取り巻く社会情勢の変化	5
7. 上位関連計画	8
第 2 章 湯河原町を取り巻く状況と課題	10
1. 湯河原町の概要	10
2. 湯河原町の緑の現状	14
3. 町民の意向	17
4. 前計画の進捗状況	20
5. 緑のまちづくりに向けた課題	21
第 3 章 緑の将来像と目標	22
1. 基本理念と将来像	22
2. 基本方針	24
3. 計画の目標	25
第 4 章 将来像実現に向けた取り組み	27
1. 取り組みの体系	27
2. 取り組みの内容	28
3. 緑化重点地区と保全配慮地区の設定	31
4. 緑地の配置・都市緑化の方針図	32
第 5 章 計画実現に向けて	33
1. 推進体制	33
2. 計画の進行管理	33
資料編	34
1. 緑地の整備目標総括表及び個別調書	34

序 章 緑の基本計画の改訂にあたって

1. 緑の基本計画改訂の背景と必要性

本町は、『潮風と深緑につつまれた四季彩のまち・湯河原』を緑の将来像とした「湯河原町緑の基本計画」を平成18年3月に見直しを行い、緑に関する様々な施策を展開してきました。

湯河原町緑の基本計画の見直しから20年が経過し、この間に人口減少や少子高齢化の進行、都市施設等の維持・管理コストの増大、PFIをはじめとする官民連携の需要の高まりなど、社会経済情勢は大きく変化しています。

本町においても、ゆがわら2021プラン（湯河原町総合計画）や湯河原町都市マスター プランなどの上位・関連計画の策定や改訂への取り組みを進めてきました。

また、生物多様性や都市緑地、観光などの緑に関する法制度などの見直しが行われるとともに、SDGsやグリーンインフラなどの持続可能な社会づくりの新たな潮流が生まれています。

このように、本町の緑を取り巻く周辺環境が大きく変化しており、これまでの蓄積を活かしつつ、時代の変化に的確かつ柔軟に対応しながら、緑に関する取り組みを計画的に進めていく必要があります。

このため、新たな時代の潮流や持続可能を踏まえた緑に関する施策の指針となる「湯河原町緑の基本計画」を改訂し、緑地の保全及び緑化に関する施策を総合的に推進していくものとします。

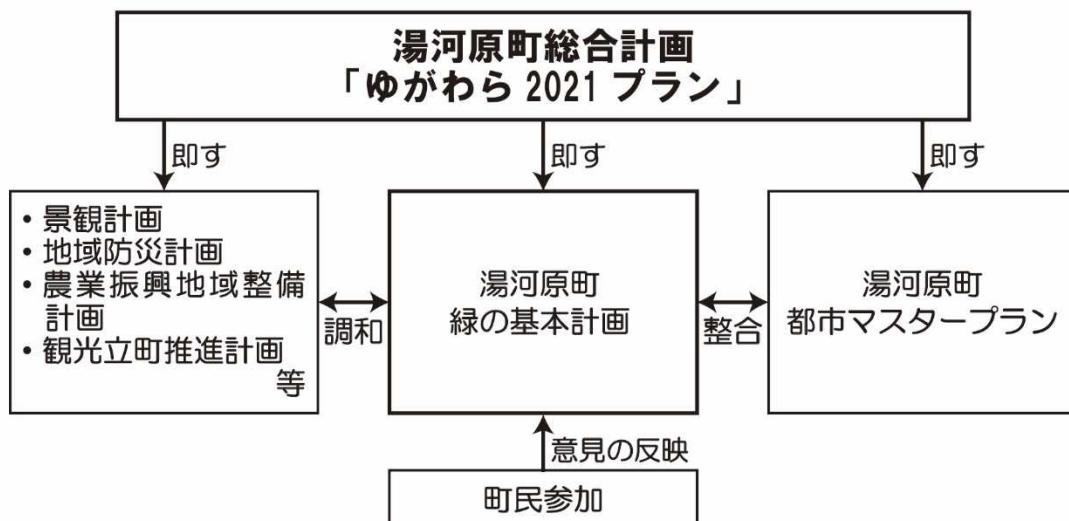
第1章 計画の基本事項

1. 緑の基本計画とは…

「緑の基本計画」(以下、本計画という。)は、緑に関する総合的な計画として、都市緑地法第4条により市町村が定めるものであり、緑地の保全や都市公園※の整備、公有地や民有地の緑化の推進など、緑全般についての将来像とそれを実現するための施策を計画的に推進するための指針となるものです。

2. 緑の基本計画の位置づけ

本計画の改訂にあたっては、上位計画である「ゆがわら 2021 プラン（総合計画）」に即し、「湯河原町都市マスタープラン」に整合し、上位計画に位置づけたまちづくりを促進するための、緑化施策を位置づけます。



3. 計画の枠組み

1) 計画の対象

本計画の対象区域は、湯河原町全域とします。対象とする町域面積は4,097haで全域が都市計画区域※となっています。また、そのうちの用途地域※指定区域面積は399haとなっています。

2) 計画期間及び目標年次

本計画の計画期間は25年間とし、目標年次は令和32年度とします。

なお、計画期間内においても、社会情勢の変化や法改正などにより、必要に応じて見直しを行います。

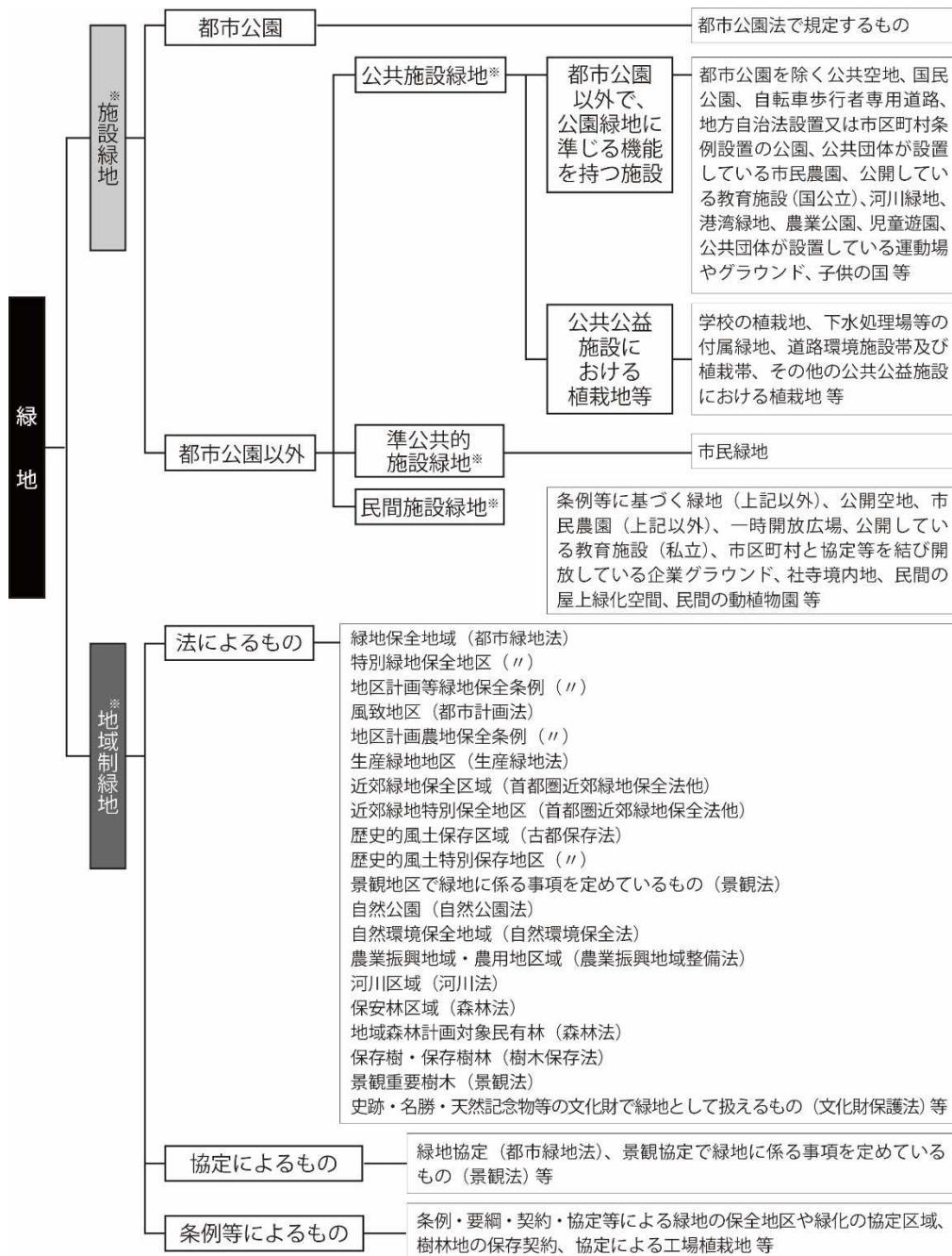
※都市公園：都市計画法や都市公園法に基づいて国や地方自治体が設置・管理する公的な緑地空間のこと

※都市計画区域：都市の健全な発展や住環境の整備を目的として、国や都道府県が指定する区域のこと

※用途地域：都市計画法に基づいて定められる土地の使い方を制限・誘導するための区域

4. 対象とする緑

本計画で対象とする緑は、公園緑地・農地・河川などの水辺・樹林地・寺社林・学校・緑化された民有地や工場など幅広い空間を対象としています。



*施設緑地：都市環境の改善や自然環境の保全を目的として、公共施設や民間施設の敷地内に設けられる緑地

*地域制緑地：法律や条例に基づいて土地利用を制限・誘導する緑地区域

*公共施設緑地：都市公園以外の公共施設の敷地内に設けられた緑地空間

*準公共的施設緑地：民間が所有・管理する施設でありながら、公共性が高く、地域住民に開放されている緑地空間のこと

*民間施設緑地：民間が所有・管理する施設の敷地内に設けられた緑地で、都市環境の改善や景観形成、地域貢献などを目的とした空間

5. 緑の有する機能

緑の持つ主な機能として、「環境保全」「レクリエーション※」「防災・減災」「景観形成」「生物多様性確保」の5つの機能を有し、町民の生活に様々な効果をもたらしています。

○環境保全機能

緑は、二酸化炭素の吸収、大気の浄化、ヒートアイランド現象※の抑制、騒音・振動などの生活環境の悪化を緩和するなどの環境保全機能を持っており、人と自然が共有する都市環境を支えています。

○レクリエーション機能

公園は、町民の交流の場として、樹林地や河川などの水辺は、自然とのふれあいの場としてなどのレクリエーション機能を持っています。また、緑の保全活動などを通じて、地域コミュニティの核となる役割も担っています。

○防災・減災機能

公園や緑地などのオープンスペースや農地は、避難場所や避難路、火災延焼の防止などの機能を持っています。樹林地は、土砂の流出を抑制する効果や雨水の浸透貯留機能を持っています。住宅地では、危険なブロック塀を生垣などにすることで、地震時の倒壊による危険性を軽減することができます。

このように様々な緑が、都市の安全性を高める防災・減災機能を持っています。

○景観形成機能

緑は、地域の気候や風土に応じ、それぞれの地域を特徴づける景観形成機能を持っています。四季の変化を実感できる美しい景観の創出に寄与し、次代を担う子どもたちの感受性を育み、人々の生活にゆとりと潤いをもたらしています。

○生物多様性確保機能

生物多様性は、生き物たちの豊かな個性とつながり、支え合うことで、市街地内における樹林地、河川やその周辺の水辺の緑などは、多様な動植物の生息域となっており、生態系を維持するため、重要な役割を果たす生物多様性確保機能を持っています。

※レクリエーション：心身のリフレッシュや楽しみを目的とした活動

※ヒートアイランド現象：都市部の気温が周辺の郊外地域に比べて高くなる現象のこと

6. 緑を取り巻く社会情勢の変化

前計画の改訂から約20年が経過し、緑や公園緑地行政を取り巻く社会情勢の変化を把握し、計画改訂に向けた視点として整理します。

1) 持続可能な開発目標（SDGs）の推進

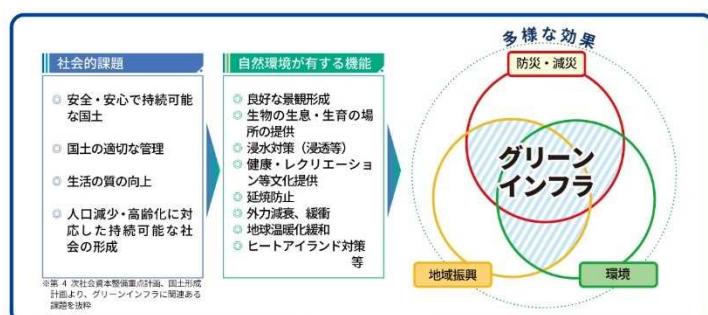
持続可能な開発目標とは、平成27年の国連サミットで採択された17の国際目標で令和12年に向けて、世界中の国々で、貧困をなくし、全ての人々が平等に機会を与えられ、持続可能でよりよい生活を送ることができる世界を実現するため、17のゴール（目標）と169のターゲットを掲げています。

本計画における取り組みは、SDGsの目指す目標の達成に貢献するものもあることから、町民、事業者、行政が目標達成の意義を意識し、自らが当事者として主体的に取り組む必要があります。



2) グリーンインフラの推進

人口減少や社会資本の老朽化が進行し、気候変動の影響により自然災害が頻発化・激甚化するなか、令和元年に公表されたグリーンインフラ推進戦略では、グリーンインフラとは、「社会資本整備、土地利用などのハード・ソフトの両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進める取り組み」として、行政だけではなく、地域住民や民間企業など多様な主体との連携によりグリーンインフラの取り組みを積極的に推進するという方針が示されています。



◎ 防災・減災や地域振興、生物生息空間の場の提供への貢献等、地域課題への対応

○ 持続可能な社会、自然共生社会、国土の適切な管理、質の高いインフラ投資への貢献

3) 生物多様性への配慮

平成 22 年に開催された生物多様性条約 10 回締約国会議（COP10）における決議などを踏まえ、翌年に生物多様性の確保を目的に都市緑地法運用指針が改正され、緑の基本計画における「生物多様性に関する技術的配慮事項」が示されています。

さらに、平成 30 年には、生物多様性の観点を緑の基本計画に取り入れるために、「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」が示され、樹林地や農地に限られる都市部における多様な生物の生息・生育環境となる緑地の保全・創出の推進や、緑の基本計画を生物多様性に活用することが推進されています。

また、環境省では、令和 3 年 6 月の G7 サミットで約束された「30 by 30」（令和 12 年までに陸と海の 30% 以上を自然環境エリアとして保全すること）の達成を目指して、国立公園などの拡大だけではなく、地域、企業、団体により生物多様性の保全が図られている土地の国際データベースへの登録やその保全を促進するとされています。

4) 緑のオープンスペースの新たなステージ

これまでの経済成長・人口増加社会では緑とオープンスペースの量的な拡大に重点を置き、取り組みを進めてきました。しかし、一定量のストックの蓄積や施設の老朽化、少子高齢化・人口減少、財政状況の悪化、国民の価値観の多様化などの変化により、緑のオープンスペースの持つ多様な機能を最大限に引き出すため、質の向上に転換していくことが必要となっています。

多様な機能の発揮により、持続可能で魅力ある都市の形成、個性と活力のある都市づくりの実現、町民生活の質の向上などを目指していくことが求められています。

こうした背景から、平成 29 年に都市公園法が改正され、民間活力による都市公園整備手法である公募設置管理制度（Park-PFI）などの新しい制度が創設され、民間活力を活用した緑の整備や保全を効果的に推進する取り組みが進められています。

5) 都市農地の重要性の評価

平成 27 年に成立した都市農業振興法により、都市農業の多面的な機能（農産物の供給、防災、良好な景観の形成、国道・環境の保全、農作業体験・交流の場、農業に対する理解醸成）が評価されたことを受け、平成 29 年に都市緑地法が改正され、緑地の定義に「農地」が含まれることが明記され、農地を施策に取り込んでいくこととなっています。

都市緑地法 (2017年6月改正)	都市公園法 (2017年6月改正)	生産緑地法 (2017年5月改正)
<ul style="list-style-type: none">「緑地」の定義に農地が含まれることを明記緑の担い手として民間主体を指定する制度の拡充民間による市民緑地の整備を促す制度の創設 等	<ul style="list-style-type: none">公募設置管理制度(P-PFI) の創設都市公園で保育所等の設置が可能・公園活性化に関する協議会の設置・都市公園の維持修繕基準法令化 等	<ul style="list-style-type: none">生産緑地地区の面積要件の引き下げが可能に農作物等加工施設、農作物等直売所、農家レストラン等を設置可能施設として追加 等

6) 新型コロナウイルスを契機としたオープンスペースの利用の変化

令和2年に国土交通省より「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性」において、「オープンスペースの今後のあり方と新しい政策の方向性」が示されています。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、多くの人が自宅近くで過ごす時間が増え、住まいの身近な環境や地域の自然資源の必要性が認識されるようになり、運動不足の解消、ストレスの緩和の効果が得られる場として、オープンスペースの重要性が再認識されています。

こうした状況下のなか、屋外空間である公園緑地は、感染症への感染リスクが高くないと考えられ、新型コロナ危機を契機に、テレワーカー※の作業場所や、これまでに室内で行っていたフィットネス※を公園で実施したり、オープンスペースにキッチンカーを配置し、オープンカフェとして活用するなど、過密の発生を防ぐ工夫として、公園などの公共空間が利用されていました。

このように公園などの緑やオープンスペースを、地域でのエリアマネジメント活動※の実践の場として柔軟に活用する上では、活動組織やNPO法人、指定管理者などの民間事業者の果たす役割は大きく、それを効果的に活用するための人材育成の必要性も高まってきています。

また、新型コロナウイルス危機により、再認識された公園緑地などの緑とオープンスペースの価値は、多機能性を持つグリーンインフラとして、その効果を戦略的に高めていく必要があります。

そして、新たな生活様式に対応していく上では、多世代の多様な利用ニーズに対応した魅力的な緑とオープンスペースを整備・利活用することが重要です。

さらに、既存のオープンスペースなど柔軟かつ多様な利活用を図るために、地域コミュニティなどが連携し、多様な主体が参画できるプラットホーム※を形成し、日ごろから地域の課題に応じたオープンスペースの活用方法について、各地域で検討を深めていく必要があります。

※テレワーカー：情報通信技術を活用して、オフィス以外の場所で柔軟に働く人のこと

※フィットネス：健康や体力の維持・向上を目的とした運動やライフスタイル全般を指す

※エリアマネジメント活動：特定の地域において、住民・事業者・地権者などが主体となって、地域の価値や魅力を維持・向上させるために行う活動のこと

※プラットホーム：特定の機能を果たすための基盤やステージのこと

7. 上位関連計画

計画名	ゆがわら 2021 プラン (令和3年3月策定)
基本理念	○持続可能な「地域社会」を築く ○魅了する「地域環境」を築く ○活力ある「地域経済」を築く ○「共生」と「協働」でまちを築く
将来像	『湯けむりと笑顔あふれる四季彩のまち 湯河原』
将来人口	令和 12 年 : 20,000 人
土地利用構想	<p>● 指点 ■ 広域商業拠点 ■ 都市中心拠点 ■ 観光拠点 ■ 海洋交流拠点 ■ アメニティ拠点 ■ 交通拠点</p> <p>● 軸 — 公共交通軸 — 広域交通軸 — 都市交通軸 — アメニティ軸</p> <p>● ゾーン ■ 複合市街地ゾーン ■ 住宅市街地ゾーン ■ 緑住環境ゾーン ■ 自然環境ゾーン ■ 海洋環境ゾーン</p>
まちづくりの基本目標	<p>基本目標1 『観光・産業』 魅力と活力にあふれにぎわいのあるまちづくり</p> <p>基本目標2 『保健・福祉』 ともに支え合い笑顔で暮らせるまちづくり</p> <p>基本目標3 『生活環境』 四季彩と暮らしが調和した安全・安心のまちづくり</p> <p>基本目標4 『文化・教育』 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり</p> <p>基本目標5 『行財政運営』 みんなでつくる自立と協働のまちづくり</p>

計画名	湯河原町都市マスター・プラン (平成21年3月策定)
基本理念	<ul style="list-style-type: none"> ○ “湯河原らしさ”を大切にした都市づくり ○ “豊かさと快適さ”を実感できる都市づくり ○ “町民主体”の協働の都市づくり
将来都市像	『みどり・歴史と共に生する 快適文化創造都市 湯河原』
将来都市空間構造	<p>～中核的な都市機能が集積立地する拠点と軸の形成～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 広域路線拠点 ■ 郡市中心拠点 ■ 観光拠点 ■ 海洋交流拠点 ■ 都市活動軸 <p>～様々な活動・交流を支える交通ネットワークの形成～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 交通拠点 ■ 公共交通輸送 ■ 広域交通輸送 ■ 都市交通輸送 <p>～「みどり・歴史・景観」を活かした快適環境の拠点と軸の形成～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アメニティ拠点 ■ アメニティ軸 <p>～在地特性を活かした魅力ある都市環境の形成～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 市街環境ゾーン ■ 接合市街地ゾーン ■ 住宅市街地ゾーン ■ 緑住環境ゾーン ■ 自然環境ゾーン ■ 海洋環境ゾーン
緑に関する施策	<ul style="list-style-type: none"> ●公園・緑地の整備方針 <ul style="list-style-type: none"> ・公園・緑地の適正な整備水準の確保 ・都市の骨格を形成する大規模な公園・緑地の整備 ・町民生活に身近な公園・緑地の整備 ・環境資源を活かした特色ある公園・緑地の整備 ・活用促進に資する既存都市公園等の作成 ●景観まちづくりの方針 <ul style="list-style-type: none"> ・町を特徴づける骨格的な景観都市構造の形成 ・地区の特性を活かした個性的で特色ある都市景観の形成

第2章 湯河原町の緑を取り巻く状況と課題

1. 湯河原町の概要

1) 位置

本町は、神奈川県西部の足柄下郡に位置し、東京都心から約100km圏内、県都の横浜から約70kmに位置する東西14.4km、南北6.5kmで総面積40.97km²の広がりのある都市です。

本町は、南西部は静岡県熱海市、西部は静岡県田方郡函南町、北西部は箱根町、北東部は小田原市、東部は真鶴町に接し、南東部は相模灘に面しています。



2) 気候・地勢

気候は、三方を伊豆箱根の山々に囲まれ、南東に相模灘が望んでいることから黒潮の影響を受け、年間を通じて極めて温暖な環境にあります。

令和6年の月平均気温は10.4~28.8°C、月平均降雨量は232.5mmとなっています。

地形は、大きく箱根火山地などの山地と都市的土地区画整理事業が進む低地の2つに分かれています。

山地は、寄生火山である幕山等の箱根火山地と湯河原火山地に分けられ、湯河原火山は箱根火山よりも形成時期が古く、極めて開析の進んだ成層火山で、湯河原町の部分は、東方に開いた直径6kmほどの侵食カルデラの北半部にあたります。

低地は、新崎川及び千歳川によって形成された沖積低地であり、新崎川低地は土石流堆及び扇状地により構成され、千歳川低地は宅地化が進みほとんどが盛土地となっていますが、これは元来、東海道本線の山側は谷底平野、海側は三角州となっていました。

主要な河川は、千歳川と新崎川があり、千歳川は静岡県との境界となっており、温泉場において藤木川と合流し、藤木川は天照山、鞍掛山を水源としています。新崎川は白銀山を水源とし、幕山の西側を流れ相模灘に注いでいます。

3) 植生

本町は温帯降雨林地帯に属しますが、実際には標高0mの海浜性の植物から標高1,000mに及ぶ亜高山性の植物まで、その植生は多種多様となっています。大別すれば、海拔800m以上の山地には冷温帯に見られる種類が多くを占め、それ以下の山腹、平野、海岸地帯は暖温帯に属するものが生育しています。

そのため本町は、ブナ林などの北方系植物の南限に、またハマユウなどの南方系植物の北限に相当しています。

また、動物についても植物同様に種類が多く、海、陸、高地、低地と複雑な様相を示しています。

4) 土地利用

土地利用は、行政区域全体（都市計画区域）では自然的土地利用が84.8%を占め、山林が大部分に広がっています。また、都市的土地利用が15.2%となっており、相模灘に面した低地部に広がり、主に住宅用地、併用住宅、宿泊娯楽施設用地が主な土地利用となっています。

また、用途地域内では、都市的土地利用が77.1%を占めており、自然的土地利用では農地が主な土地利用となっており、用途地域外では、自然的土地利用が91.4%を占めており、豊かな自然環境が残っています。

〈土地利用現況〉

	行政区域		用途地域		用途地域外	
	面 積(ha)	構成比(%)	面 積(ha)	構成比(%)	面 積(ha)	構成比(%)
農地	241.0	5.9%	38.8	9.7%	202.2	5.5%
山林	3,122.5	76.2%	28.2	7.1%	3,094.3	83.7%
河川、水面、水路	18.2	0.4%	5.5	1.4%	12.7	0.3%
荒地、海浜、河川敷	91.0	2.2%	18.7	4.7%	72.3	2.0%
自然的土地利用 計	3,472.7	84.8%	91.2	22.9%	3,381.5	91.4%
住宅用地	174.3	4.3%	102.2	25.6%	72.1	1.9%
併用住宅	53.4	1.3%	41.6	10.4%	11.8	0.3%
業務施設用地	5.0	0.1%	3.3	0.8%	1.7	0.0%
商業用地	12.8	0.3%	9.3	2.3%	3.5	0.1%
宿泊娯楽施設用地	32.7	0.8%	18.2	4.6%	14.5	0.4%
工業用地	6.0	0.1%	2.4	0.6%	3.6	0.1%
運輸施設用地	6.0	0.1%	3.5	0.9%	2.5	0.1%
公共空地	26.8	0.7%	6.1	1.5%	20.7	0.6%
民間空地	53.8	1.3%	0.0	0.0%	53.8	1.5%
文教・厚生用地	38.7	0.9%	25.4	6.4%	13.3	0.4%
公共用地	2.4	0.1%	1.1	0.3%	1.3	0.0%
供給処理施設用地	8.1	0.2%	2.2	0.6%	5.9	0.2%
その他空地	44.4	1.1%	20.7	5.2%	23.7	0.6%
防衛用地	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
道路用地	148.8	3.6%	61.9	15.5%	86.9	2.3%
鉄道用地	11.1	0.3%	9.9	2.5%	1.2	0.0%
都市的土地利用 計	624.3	15.2%	307.8	77.1%	316.5	8.6%
総面積	4,097.0	100.0%	399.0	100.0%	3,698.0	100.0%

資料：都市計画基礎調査

5) 都市計画

本町は、行政区域全体の 4,097ha が都市計画区域に指定されていますが、非線引き都市※であり、用途地域が 399ha(9.7%) となっています。

用途地域の内訳では、住居系が 241ha (60.4%)、商業系が 155ha (38.8%)、工業系が 3ha (0.8%) となっており、住居系及び商業系の比率が高くなっています。

その他に、用途地域外となる山間部には風致地区※、用途地域内には特別用途地区※及び準防火地区※が指定されています。また、農林業関連法規制としては、用途地域の北側一帯に農業振興地域※が指定されているとともに、主に畠地が農用地に指定されています。

〈土地利用法規制〉

	面 積(ha)	行政区域に対する割合(%)	用途区域に対する割合(%)
行政区域	4,097	100.0%	—
用途区域	399	9.7%	100.0%
第二種中高層住居専用地域	13	0.3%	3.3%
第一種住居地域	182	4.4%	45.6%
第二種住居地域	25	0.6%	6.3%
準住居地域	21	0.5%	5.3%
近隣商業地域	3	0.1%	0.8%
商業地域	152	3.7%	38.1%
準工業地域	3	0.1%	0.8%
用途地域外	3,698	90.3%	—
風致地区	3,448	84.2%	—
特別用途地区	101	2.5%	—
準防火地区	221	5.4%	—
地区計画	約 6.5	0.2%	—

資料:都市計画基礎調査

6) 道路・交通

本町の主要な道路網は、国道 135 号をはじめ、真鶴道路（真鶴ブルーライン）、県道 75 号（湯河原箱根仙石原線・椿ライン）、湯河原パークウェイ、アネスト岩田ターンパイク箱根を骨格的な道路軸とし、それらを補完する形で町道網がネットワークしています。

鉄道交通網では、JR 東日本東海道本線が通っており、町内に湯河原駅が設置され、町の交通拠点となっています。

バス交通では、箱根登山バス、伊豆箱根バス、東海バスにより 6 系統が運行されています。また、町内循環バスとしてコミュニティバスが湯河原駅から真鶴駅間を 10 往復 20 便が運行されています。

※非線引き都市：区域区分が定められていない都市計画区域

※風致地区：自然の景観や歴史的な雰囲気を守るために、建築や開発行為に制限が設けられている地区

※特別用途地区：用途地域が指定されているエリアに重ねて指定され、用途地域の制限だけでは不十分な場合に、さらに細かい制限を加えたり、緩めたりする地区

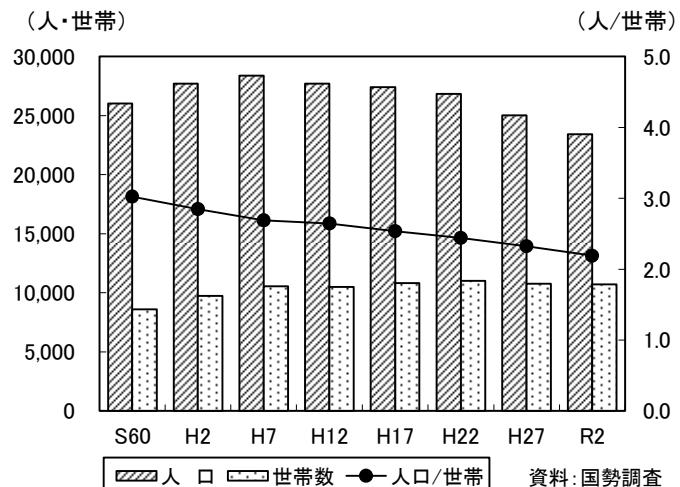
※準防火地区：火災の発生や延焼を防ぐために、建物の構造や材料に一定の制限が設けられている地区

※農業振興地域：将来にわたって安定的に農業を続けていくために、農地の保全と活用を重点的に進める地域

7) 人口・世帯数

本町における総人口の推移をみると、平成 7 年の 28,389 人を境に減少に転じ、その後は減少傾向が続き、令和 2 年では 23,426 人となっています。

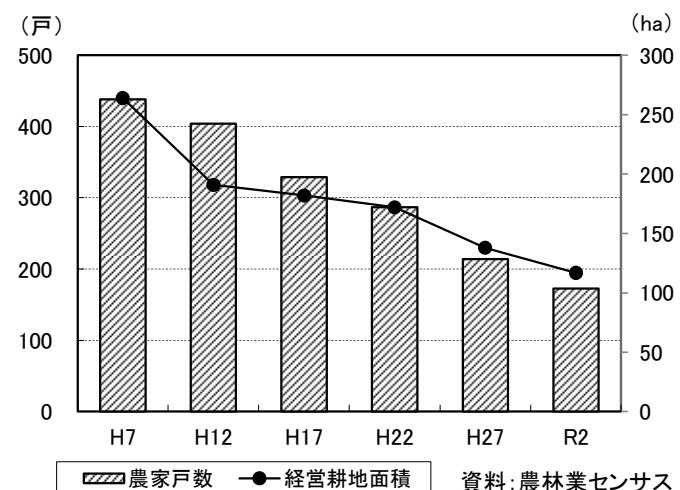
世帯数においては微増微減を繰り返しながらも大きな変動はなく、令和 2 年は 10,696 世帯となっています。また、1 世帯当たりの世帯人員は年々減少し、令和 2 年には 2.19 人/世帯と核家族化の進行がうかがわれます。



8) 農林業

農家戸数は年々減少傾向にあり、平成 7 年の 438 戸より 60.5% 減少して、令和 2 年には 173 戸となっています。

また、経営耕地面積も同様に減少傾向にあり、平成 7 年の 264ha より 55.7% 減少して、令和 2 年には 117ha となっています。



2. 湯河原町の緑の現状

1) 緑地の現況

本町の緑地のうち施設緑地については、都市計画区域における都市公園が 26.01ha あり、都市計画区域 1 人あたりの面積は 11.10 m²/人となっています。これは都市公園法の標準値 10 m²/人を上回る面積となっています。施設緑地は、その他に公共施設緑地が 38.93ha あり、都市計画区域に 64.94ha の緑地が確保されています。

地域制緑地については、法によるものが 4 地区からなる風致地区の総面積 3,448.00ha が指定されており、町全域の約 85.0% を占めています。また、その他法によるもので 3,427.30ha となっているほか、協定や条例によるものを合わせた地域制緑地の面積は 3,461.86ha（重複部分を除く）となっています。

施設緑地と地域制緑地を合わせた緑地の総計は 3,482.63ha（重複部分を除く）であり、用途地域では 48.43ha となっています。

〈緑地の現況（令和7年）〉

年次 施設緑地種別	用途地域		都市計画区域		
	整備量		m ² /人	整備量	
	箇所	面積(ha)		箇所	面積(ha)
都市公園	18	6.20	3.54	21	26.01
	11	3.83	2.19	30	38.93
	29	10.03	5.73	51	64.94
					27.72
民間施設緑地					
施設緑地 計		29	10.03	5.73	51
風致地区	1	24.60	14.06	2	3,448.00
	3	6.12	3.50	8	3,427.30
	4	30.72	17.56	10	6,875.30
	8	7.68	4.39	9	7.74
	8	7.68	4.39	9	7.74
					3,421.18
地域制緑地 計		12	38.40	21.94	19
施設・地域制緑地間の重複					44.17
緑地総計		41	48.43	27.67	70
					3,482.63
					1,486.65

2) 都市公園等

都市公園法に基づき設置する都市公園としては、総合公園^{*}となる「湯河原町総合運動公園」をはじめ、21箇所が整備されており、身近な公園としての機能を補完する形で児童遊園^{*}が2箇所配置されています。

〈都市公園一覧〉

	種別	名称	面積 (ha)		種別	名称	面積 (ha)
1	街区公園 ^{**}	川端公園	0.36	16	近隣公園 [*]	湯河原海浜公園	1.82
2		蔵町公園	0.36	17		万葉公園	1.95
3		千暮公園	0.13	18	総合公園	湯河原町総合運動公園	10.13
4		御庭公園	0.33	19	風致公園	幕山公園	7.70
5		桜木公園	0.55	20	広場公園 [*]	湯河原海辺公園	0.48
6		広崎公園	0.28	21		駅前ポケットパーク	0.06
7		若宮公園	0.14		合計		25.98
8		亀ヶ原公園	0.25				
9		さくらんぼ公園	0.35				
10		柵口公園	0.16				
11		宮上公園	0.15				
12		川堀公園	0.18				
13		森下公園	0.23				
14		ゆり公園	0.29				
15		城堀公園	0.08				

〈児童遊園一覧〉

	名称	面積 (ha)
1	方仙山児童遊園	0.06
2	福浦児童遊園	0.15
合計		0.21

*総合公園：都市公園の一種で、都市住民全般が休息・観賞・散歩・遊戯・運動などを総合的に楽しめるよう設計された大規模な公園

**児童遊園：児童福祉法第40条に基づいて設置される児童厚生施設の一つ

***街区公園：都市公園の中でも最も小規模で、街区の住民が日常的に利用することを目的とした公園

****近隣公園：主に近隣に居住する住民の利用を目的とした公園

*****広場公園：主に人々が集まるための公共の場であり、特定の目的に利用されることが多い開けた公園

3) 歴史・文化

文化財の状況は、表に示すとおりであるが、このうち都市空間を特色づけるものとして、国指定の天然記念物の「城願寺のビャクシン」や「山神の樹叢」のほか、町指定の史跡等が市街地を中心に分布しています。

〈文化財の状況〉

指定主体	種 別	名 称
国	天然記念物	城願寺のビャクシン 山神の樹叢
町	史跡	明神の楠 土肥城址（土肥城山）
	天然記念物	五所神社の銀杏 五所神社の楠 産土八幡神社の楠

※指定文化財のうち、緑地等に関する文化財を抜粋して記載

3. 町民の意向

1) 町民アンケート調査の概要

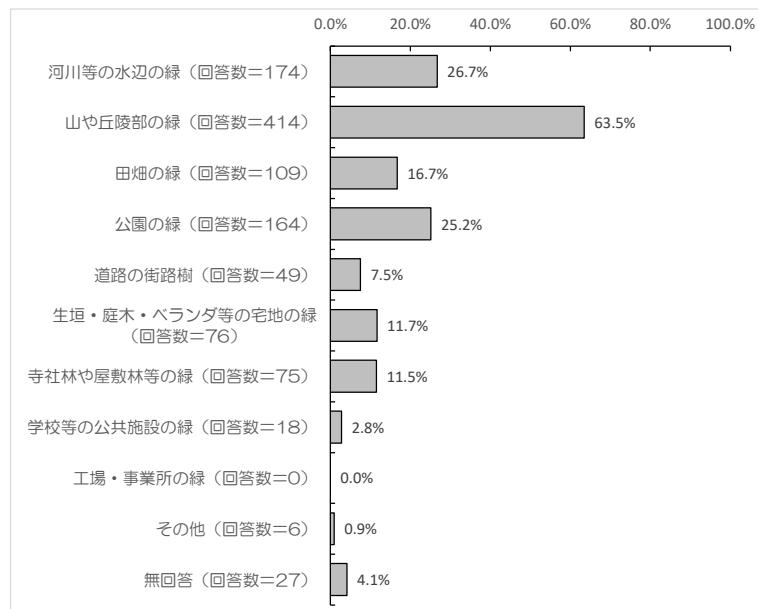
調査の方法	<ul style="list-style-type: none">・調査地域：町全域・調査対象：全町民（22,073人 令和7年1月1日現在）・抽出方法：住民基本台帳から18歳以上を無作為抽出・標本数：2,000票・調査方法：郵送による発送・回収・調査期間：令和7年1月16日～2月28日
回収状況	<ul style="list-style-type: none">・標本数：2,000票・有効回収数：652票・有効回収率：32.6%

2) 町民アンケート調査の結果

＜湯河原町全体に多い緑について（複数回答）＞

約6割の人が「山や丘陵部の緑」が多いと感じています。

湯河原町全体ではどのような緑が多いと思うかについての割合は、「山や丘陵部の緑」が63.5%で最も高くなっています。ついで、「河川等の水辺の緑」「公園の緑」が約3割となっており、田畠、植栽等は約2割～それ以下となっています。

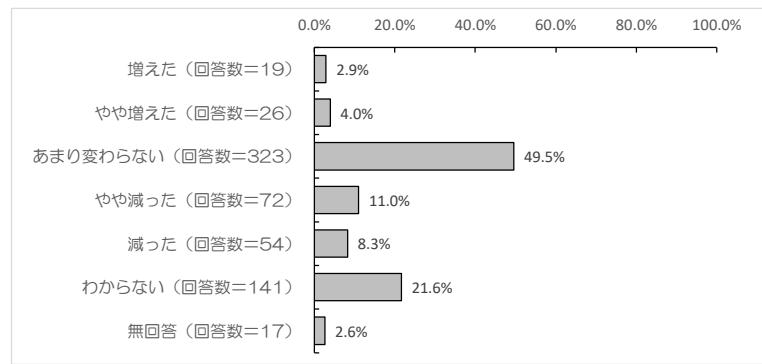


<湯河原町全体の緑はここ10年で増えているかについて>

「あまり変わらない」と感じる人が多い中で、「増えた（やや増えた）」という意見と比較して「減った（やや減った）」という意見が多くなっています。

湯河原町全体の緑はこの10年で増えているかについての割合は、「あまり変わらない」が49.5%で最も高くなっています。

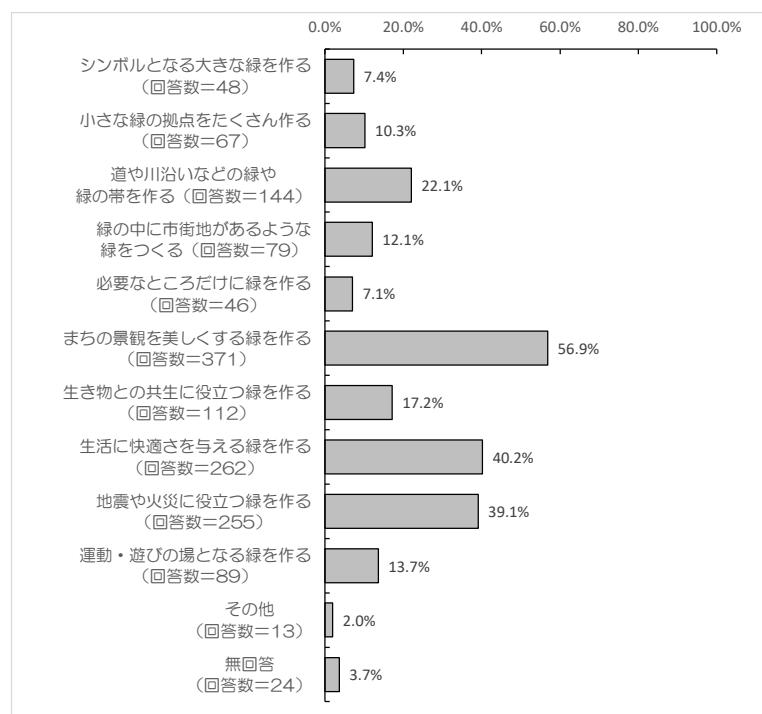
増えたと感じている割合については「やや増えた」が4.0%、「増えた」が2.9%で約1割となっており、減ったと感じている割合は「やや減った」が11.0%「減った」が8.3%で約2割となっています。



<今後の緑づくりの目標について（複数回答）>

約6割の人が「まちの景観を美しくする緑を作る」ことを目標にするべきだと感じています。

今後の緑づくりの目標についての割合は、「まちの景観を美しくする緑を作る」が56.9%で最も高くなっています。ついで「生活に快適さを与える緑を作る」が40.2%、「地震や火災に役立つ緑を作る」が39.1%で約4割となっており、近年の温暖化や自然災害などへの対応を目的とした項目が上位となっています。



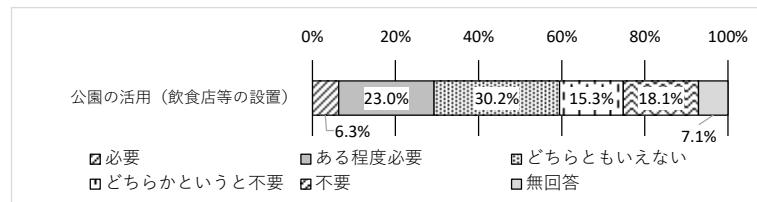
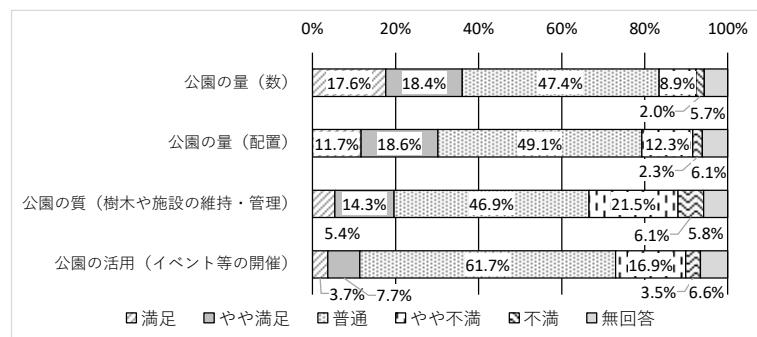
＜公園の量、質、活用について＞

公園の量については、「満足（やや満足）」している意見が「不満（やや不満）」に感じている人よりも多くなっていますが、一方で公園の質、活用については「不満（やや不満）」に感じている人が多くなっています。

公園の量、質、活用については、全ての項目で「普通」と「どちらともいえない」の割合が高くなっています。

公園の量で見ると、数、配置ともに「満足（やや満足）」の意見が「不満（やや不満）」の意見を上回っています。一方で公園の質、活用（イベント等の開催）で見ると「不満（やや不満）」の意見が「満足（やや満足）」を上回っています。

公園の活用（飲食店等の設置）については、「必要（ある程度必要）」「不要（どちらかというと不要）」の意見がともに約3割となっています。

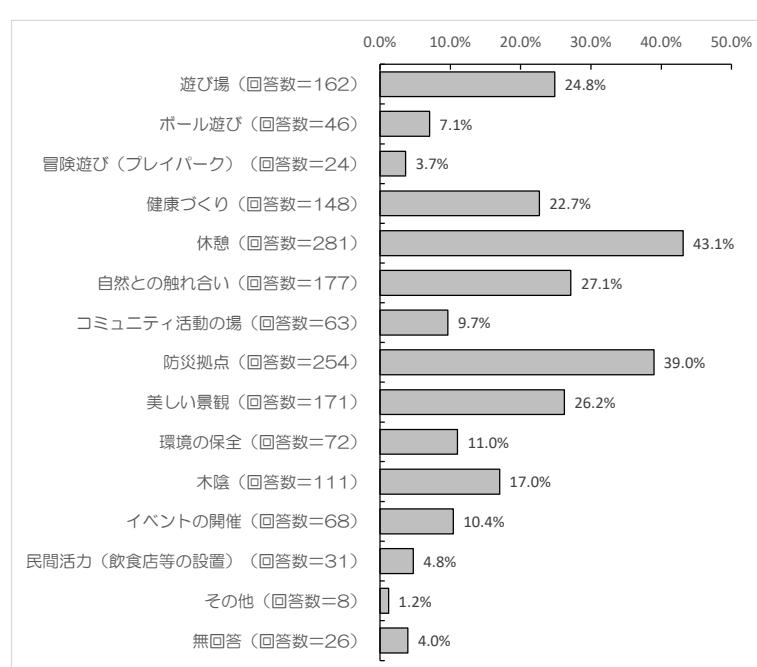


＜公園に求める機能について（複数回答）＞

「休憩」や「防災拠点」が約4割、「自然との触れ合い」や「美しい景観」が約3割と高くなっています。

公園に求める機能についての割合は、「休憩」が43.1%と最も高く、ついで「防災拠点」が39.0%でともに約4割となっています。

その他「自然との触れ合い」「美しい景観」「遊び場」「健康づくり」が約2~3割で上位となっています。



4. 前計画の進捗状況

前計画（平成 17 年度）で定めた「緑地の目標水準」と現況との比較及び施策の取り組み状況について整理します。

1) 緑地の確保目標水準

将来市街地の緑地は、公園の整備に伴って増加し、令和 7 年では緑の確保量が 48.43ha となり、将来市街地（用途地域）面積に対する緑地の割合は基準値から変化なく、12.1% となっています。

都市計画区域（町全体）の緑地は、用途地域も含めた街区公園や近隣公園の整備に伴って増加したものの、農地や民有林などが減少し、令和 7 年では緑の確保量が 3,482.63ha となっています。都市計画区域（町全体）面積に対する緑地の割合は基準値から変化なく、85.0% となっています。

〈緑地の確保目標水準〉

	前計画基準値 (平成 17 年)	前計画目標値 (令和 7 年)	現況値 (令和 7 年)
将来市街地面積に対する緑地の割合	48.06ha 12.1%	50.98ha 12.8%	48.43ha 12.1%
都市計画区域面積に対する緑地の割合	3,482.31ha 85.0%	3,485.23ha 85.0%	3,482.63ha 85.0%

2) 都市公園等の施設として整備すべき緑地の目標水準

用途地域内人口 1 人当たりの都市公園等の整備面積は、公園整備を進めてきたため、令和 7 年においては、基準値から 0.89 m² 増加し、3.54 m² となっています。

都市計画区域（町全域）の人口 1 人当たりの都市公園等の整備面積も、令和 7 年においては、基準値から 5.23 m² 増加し、27.72 m² となっています。

〈町民 1 人当たりの都市公園等の整備面積〉

	前計画基準値 (平成 17 年)	前計画目標値 (令和 7 年)	現況値 (令和 7 年)
用途地域内人口 1 人当たりの都市公園の整備面積	2.65 m ²	4.16 m ²	3.54 m ²
都市計画区域人口 1 人当たりの都市公園等の整備面積	22.49 m ²	24.22 m ²	27.72 m ²

5. 緑のまちづくりに向けた課題

本町の概況や緑の状況をはじめ、上位関連計画や時代の潮流などを踏まえ、緑のまちづくりに向けた課題を整理します。

1. 緑の維持・保全

本町は市街地を囲む形で箱根連山に連なる山々に三方を囲まれ、その中に主要な河川が流れ、市街地外縁部に農地が広がっています。本町の骨格を形成するこれらのまとまりのある緑は町民にとっても大切な資産でもあり、次代に引き継いでいくべきものとして、維持・保全を図っていくとともに、町民と行政が一体となって取り組んでいく必要があります。

2. 既存公園の充実と適正な維持・管理

住民アンケート調査では、身近な公園について、子どもから高齢者のだれもが遊び、憩える機能や健康づくり機能、自然とのふれあいや景観が楽しめる機能が求められています。

公園は貴重な緑空間でもあることから、遊具などの老朽化への対応と合わせ、質の高い緑空間として維持管理していく必要があります。

3. 緑豊かな湯河原町をアピールする緑づくり

住民アンケート調査での本町の緑づくりの目標として、まちの景観を美しくする緑づくりや生活に快適さを与える緑づくり、地震や火災などの災害に役立つ緑づくりなどが挙げられています。

本町における緑づくりは、町民の日常的な暮らしを豊かにする緑としてだけでなく、湯河原町を訪れる人にも深く印象に残る緑づくりを進めていく必要があります。

4. 緑の啓発活動の充実

町は町民や事業者に対し、緑の空間や環境の必要性や重要性を伝えることで、緑を守り育てる意識を一人ひとりに普及させていく必要があります。

町の緑は貴重な財産であり、みんなで緑を守り、育んでいくという意識を情勢していくため、緑に直接触れ合える機会づくりを充実させていく必要があります。

5. 町民の手による緑化活動の推進

公園や街路樹などの維持管理や身近な緑づくりなどを行行政だけでなく、町民や事業者なども協力し、各々がこれまで以上に自分のこととして緑を捉え、関わっていくことが重要となっています。

そのため、様々な取り組みへの支援の充実を図っていくとともに、だれもが気軽に活動などに参画できるきっかけづくりを創っていく必要があります。

第3章 緑の将来像と目標

1. 基本理念と将来像

1) 基本理念

緑は、都市の環境を支える基盤ともいえるものであり、潤いのある良好な都市環境の形成を図り、現在及び将来にわたって町民の健康で快適な生活を確保し、魅力的な都市形成に欠かせないものとなっています。

本計画の上位計画である湯河原町総合計画「ゆがわら 2021 プラン」に掲げられている町の将来像『湯けむりと笑顔あふれる四季彩のまち 湯河原』には、温泉や自然などの恵まれた地域資源を活かしたまちづくりを進めていく想いが込められています。

本計画においては、湯河原町総合計画「ゆがわら 2021 プラン」を踏まえ、行政だけでなく、町民、事業者とも協力しながら、恵まれた豊かな自然環境を身边に感じながら、訪れる人や暮らす人々にやさしい四季折々の花や緑が整ったまちづくりを進めていくことを基本理念とします。

2) 将来像

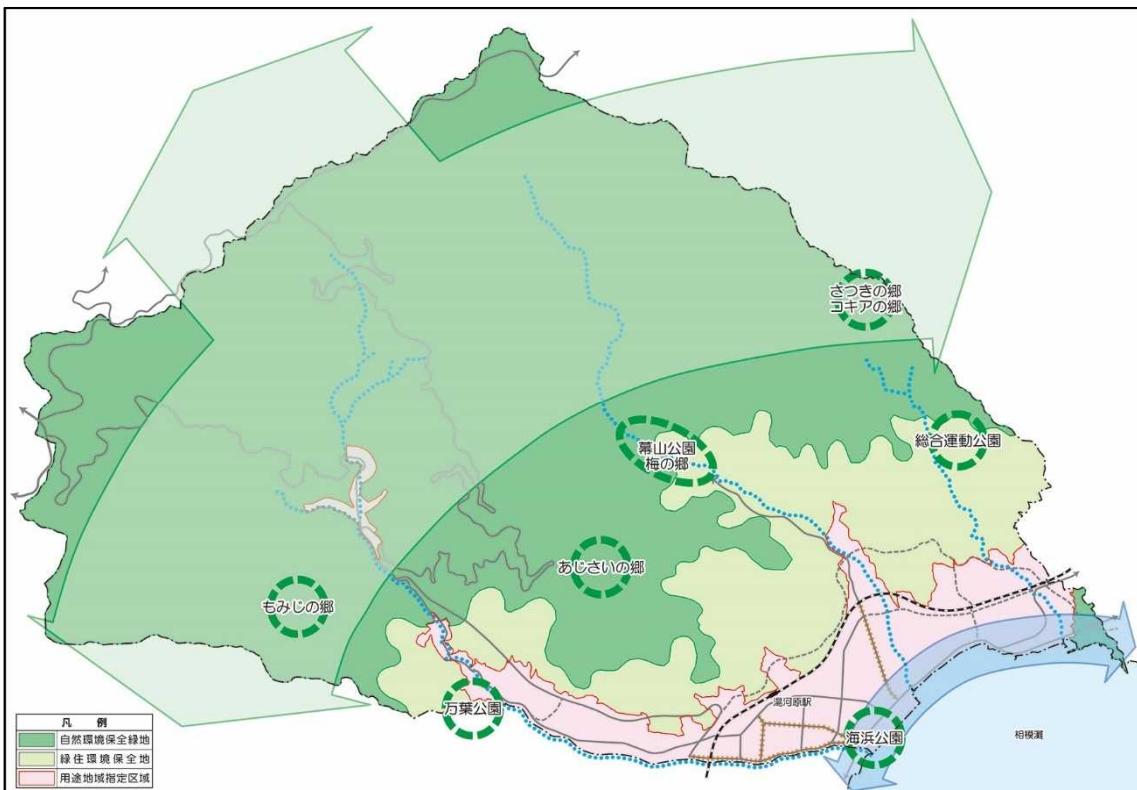
将来像については、前計画の『潮風と深緑につつまれた四季彩のまち 湯河原』を継承しつつ、これからの新しい時代の緑のまちづくりに取り組んでいきます。

『潮風と深緑につつまれた四季彩のまち 湯河原』

3) 緑の将来構造

緑の将来像を実現していくため、緑の現況等を踏まえ、骨格的な緑の軸、水の軸、緑の拠点から構成される緑の将来構造を設定します。

〈緑の将来構造〉



凡 例	
緑の軸	湯河原町及び周辺市町を含め、箱根連山の広域的に広がりから緑の連続性が確保され、今後も保全・活用が求められる緑空間を緑の軸として位置づけます。
水の軸	相模灘に面する湯河原海岸や町内を流れる主な河川を水の軸として位置づけ、水辺環境の保全・活用を図ります。
緑の道路軸	町内の主要な幹線道路を緑の道路軸として位置づけ、沿道の緑化と適正な維持管理を進めます。
緑の拠点	主要な公園（総合運動公園、幕山公園、万葉公園、海浜公園）やレクリエーション機能を持つまとまりのある緑（さつきの郷、コキアの郷、梅の郷、もみじの郷、あじさいの郷）を緑の拠点として位置づけ、緑の保全・活用とともに適正な維持管理を進めます。

2. 基本方針

本計画の将来像「潮風と深緑につつまれた四季彩のまち 湯河原」を実現するための4つの基本方針を定め、緑のまちづくりを進めていきます。

この方針に基づき、緑の自然環境の有する多様な機能を活用したグリーンインフラの展開も念頭に置きながら、持続可能な魅力あるまちづくりを目指します。

基本方針1 「まもる」‥今ある緑の保全

本町に広がる貴重な自然環境や豊かな緑資源を将来にわたって継承していくため、計画的に保全を図ります。

公園や水辺空間の維持管理とともに、緑環境を構成する各種資源を保全します。

基本方針2 「つくる」‥緑の空間づくり

既存公園の再整備や新たな公園づくりの検討とともに、緑豊かな空間を創造するため、町内施設の緑化を図ります。

新たな緑を補うとともに、花や木々、生物等の多様性に配慮した緑づくりを進めます。

基本方針3 「いかす」‥緑資源の活用

今ある緑を活かした緑の活用を図ります。

緑の持つ機能を活かしていくことで、緑を豊かな暮らしに必要な都市基盤として活用していきます。

基本方針4 「はぐくむ」‥緑に対する想いを育む

町民の緑に対する想いを育み、緑を守り育てる取り組みを進めます。

緑に関わる人材や団体を育成していくとともに、町民をはじめとして、湯河原町に 関わるだれもが緑づくりに携われる環境づくりを進めます。

3. 計画の目標

緑の将来像「潮風と深緑につつまれた四季彩のまち 湯河原」の実現に向けて、「まもる・今ある緑の保全」「つくる・緑の空間づくり」「いかす・緑資源の活用」「はぐくむ・緑に対する想いを育む」の4つの基本方針を踏まえ、次の3つの目標を設定します。

目標1 緑地の確保目標水準

現存する緑地の維持・保全に努めながら、公園等の新たな緑の整備を進め、緑地の割合を高めることを目標とします。

なお、将来の用途地域及び都市計画区域面積は、令和7年時点の面積を維持しているものとして目標値を設定します。

	令和7年 〈計画策定時〉	令和32年 〈目標年次〉
将来市街地面積に対する緑地の割合	48.43ha 12.1%	48.70ha 12.2%
都市計画区域面積に対する緑地の割合	3,482.63ha 85.0%	3,482.97ha 85.0%

目標2 都市公園の施設として整備すべき緑地の目標水準

現存の都市公園の維持・保全とともに、新たな公園等の整備を進め、施設としての整備面積を高めることを目標とします。

	令和7年 〈計画策定時〉	令和32年 〈目標年次〉
用途地域内の都市公園の整備面積	6.20ha	6.47ha
都市計画区域の都市公園の整備面積	26.01ha	26.35ha

目標3 湯河原町の緑に対する満足度

本計画の策定時に実施した住民アンケート調査における町内の緑の満足度（「満足」「やや満足」と回答した人）の割合を目標とします。

	令和7年 〈計画策定時〉	令和32年 〈目標年次〉
町内の緑の量についての満足度	28.9%	50.0%
町内の緑の質についての満足度	21.6%	50.0%

第4章 将来像実現に向けた取り組み

1. 取り組みの体系

緑の将来像の実現に向けて、以下の取り組み（施策）を実施していきます。

〈施策の体系〉

将来像	基本方針	個別施策
潮風と深緑につつまれた四季彩のまち 湯河原	「まもる」 今ある 緑の保全	施策 1 山の緑の保全 施策 2 水辺の保全 施策 3 農地などの保全 施策 4 歴史的・文化的な緑の保全 施策 5 地域のシンボルとなる緑の保全 施策 6 在来生物の生息・生息環境の保全 施策 7 生物多様性保全の取り組みの推進 施策 8 身近な公園・緑地の施設整備・リニューアル 施策 9 多様な手法による緑の保全・創出 施策 10 拠点となる緑の創出 施策 11 緑と水のネットワークづくり 施策 12 公的空間の緑化 施策 13 公共施設の緑化 施策 14 民有地の緑化 施策 15 災害時の避難場所などの確保 施策 16 異常気象や自然災害の被害の緩和 施策 17 レクリエーションへの活用 施策 18 自然学習・環境学習への活用 施策 19 緑資源のリサイクル 施策 20 適切な管理の実施 施策 21 情報発信・PR・技術支援の実施 施策 22 組織の構築・育成 施策 23 町全体での取り組み
	「つくる」 緑の 空間づくり	
	「いかす」 緑資源の活用	
	「はぐくむ」 緑に対する 想いを育む	

2. 取り組みの内容

基本方針に基づき、「まもる」「つくる」「いかす」「はぐくむ」の具体的施策に取り組んでいきます。

■ 基本方針 1 「まもる」

施策1 山の緑の保全

- ・箱根山系の法指定された自然緑地の保全の働きかけ
- ・風致地区における環境保全と景観の維持

施策2 水辺の保全

- ・海岸などの水辺空間の保全・創出

施策3 農地などの保全

- ・市街地周辺に広がる農地の適切な保全
- ・市街地内に残された緑の保全に向けた開発業者への指導・要請

施策4 歴史的・文化的な緑の保全

- ・史跡や寺社林などの所有者への緑の保全の働きかけ

施策5 地域のシンボルとなる緑の保全

- ・神奈川名木100選などの樹木の保全への働きかけ

施策6 在来生物の生息・生息環境の保全

- ・公園・緑地の整備や再整備における生物多様性への配慮

施策7 生物多様性保全の取り組みの推進

- ・自然環境の残る公園・緑地における生物多様性の保全への取り組み
- ・町域北側に広がる森林地における生物多様性への取り組み

■ 基本方針 2 「つくる」

施策8 身近な公園・緑地の施設整備・リニューアル

- ・湯河原町公共施設等総合管理計画に基づき効率的で効果的な施設等の修繕、改築の推進
- ・町民ニーズや地域特性を踏まえた街区公園等の整備及び再整備の検討

施策9 多様な手法による緑の保全・創出

- ・緑地協定の締結などによる地域の緑の保全・創出

施策10 拠点となる緑の創出

- ・さつきの郷、コキアの郷、梅の郷、あじさいの郷、もみじの郷、総合運動公園、万葉公園などにおけるアメニティ環境を有する緑の拠点の維持管理
- ・公園・緑地の整備及び再整備による地域拠点の創出

施策11 緑と水のネットワークづくり

- ・町内を流れる河川や緑の拠点と市街地を結ぶルートにおける地域と水と緑を結ぶネットワークづくり

施策12 公的空間の緑化

- ・道路や河川沿いにおける地域の個性や魅力溢れる緑化空間の整備

施策13 公共施設の緑化

- ・地域との協働などによる花壇などへの花植えの実施

施策14 民有地の緑化

- ・湯河原町開発指導要綱などに基づく、開発事業区域の緑化指導

施策15 災害時の避難場所などの確保

- ・防災公園の整備や、災害時における避難場所の確保
- ・公園への再生可能エネルギーの導入

施策16 異常気象や自然災害の被害の緩和

- ・土砂流出の抑制など、安全なまちづくりに寄与する都市近郊の自然緑地の保全
- ・グリーンインフラの観点から道路や公園などにおける透水性舗装や緑化ブロック舗装※などの導入

※緑化ブロック舗装：コンクリートブロックの隙間に芝生やタマリュウなどの植物を植えることで、舗装面に緑を取り入れる環境配慮型の舗装方法

■ 基本方針3 「いかす」

施策 17 レクリエーションへの活用

- ・市民が河川や海岸などの水辺に親しめるうるおいのある水辺環境づくりの推進
- ・既存公園・緑地の利活用の促進

施策 18 自然学習・環境学習への活用

- ・農地や緑住地域などでの自然観察会などの開催
- ・森林地における生物多様性の保全に配慮しながら、市民が親しめる山の緑としての環境整備の推進

施策 19 緑資源のリサイクル

- ・緑資源のリサイクルのための剪定枝葉などの堆肥化と、植木ごみのチップ化などへの再利用の推進

■ 基本方針4 「はぐくむ」

施策 20 適切な管理の実施

- ・地域の意見などを踏まえた街路樹の管理
- ・街路樹などにより不備が生じている歩道などの改修

施策 21 情報発信・PR・技術支援の実施

- ・緑に関わる人の交流の場や学習の場の提供による知識や技術力の向上
- ・各種イベントなどを通じた緑化の啓発、PRによる緑化意識の高揚
- ・市民や団体、行政間での情報交換の仕組みづくり

施策 22 組織の構築・育成

- ・既存ボランティア団体の活動支援と自発的・自主的に提案などを行う団体などの育成

施策 23 町全域での取り組み

- ・緑化団体などとの協働による町内緑化の推進

3. 緑化重点地区と保全配慮地区の設定

1) 緑化重点地区

緑化重点地区は、都市緑地法第4条第2項 10号において「緑化地域以外の地域であって重点的に緑化の推進に配慮すべき地区」と規定されています。

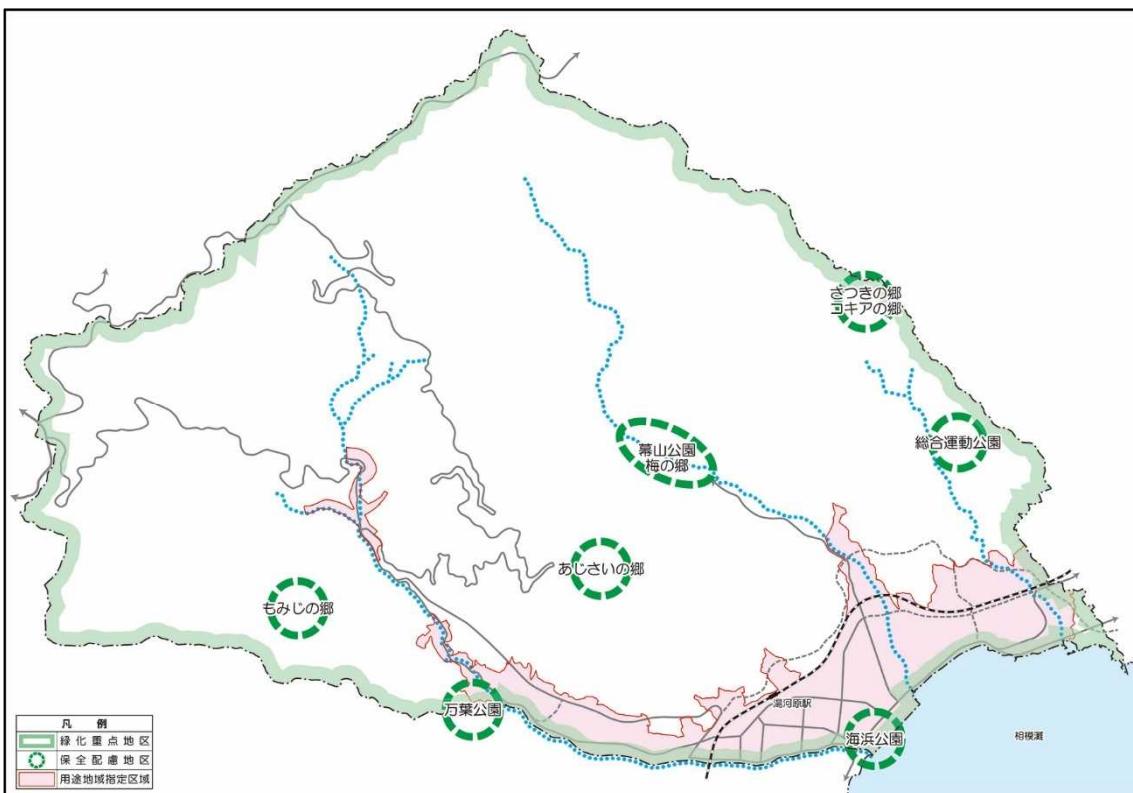
本町の有する豊かな自然環境は、町民にとって誇れる大切な財産であることから、「町全体を緑化重点地区」として位置づけ、緑の将来像『潮風と深緑につつまれた色彩のまち 湯河原』の実現に向けて積極的に取り組んでいきます。

2) 保全配慮地区

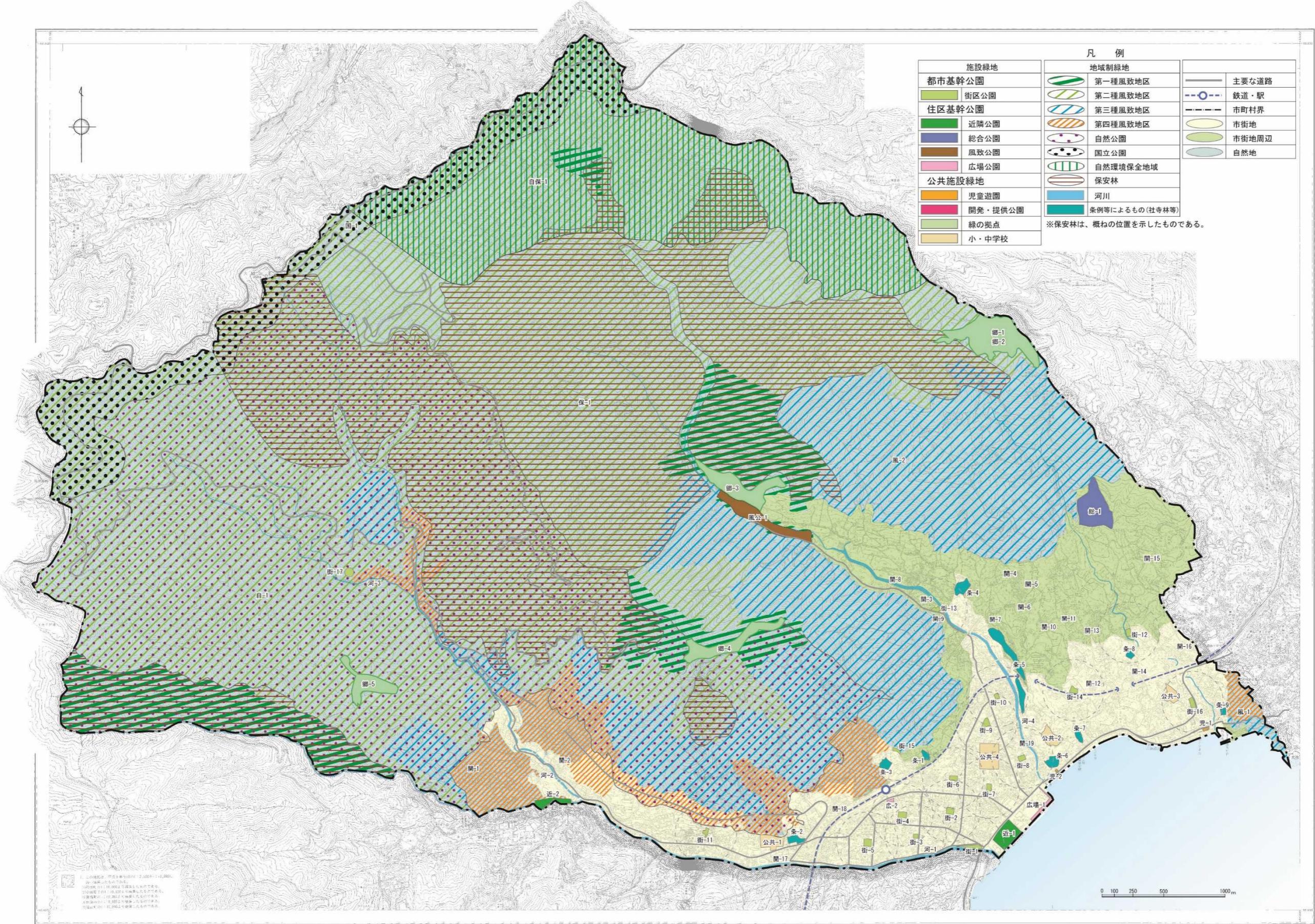
保全配慮地区は、都市緑地法第4条第2項8号において「緑地保全地域、特別緑地保全地区及び生産緑地地区以外の区域にあって、重点的に緑地の保全に配慮を加える地区」と規定されています。

本計画では、本町の主要な公園となる総合運動公園や幕山公園、海浜公園、万葉公園のほか、重要な緑の拠点ともなっている「さつきの郷、コキアの郷（星ヶ山公園）」「梅の郷（幕山）」「もみじの郷（池峯）」「あじさいの郷（城山・土肥城址）」の4か所を設定し、町民をはじめ、多くの人々の協力を得ながら緑の保全に取り組んでいきます。

〈緑化重点地区及び保全配慮地区〉



4. 緑地の配置・都市緑化の方針図



第5章 計画実現に向けて

1. 推進体制

計画の推進にあたっては、行政だけではなく、町民、地域、事業者などが協力しあい、恵まれた豊かな自然を身近に感じながら、安全に安心して暮らしていくことができるまちづくりを進めていくため、町民、地域、事業者、行政などの様々な主体が連携して、持続的な緑のまちづくりに取り組んでいきます。

〈町民・事業者・行政の役割〉

■町 民

町民の一人ひとりが環境問題や緑の持つ環境保全機能を理解し、環境意識を持つことが重要であり、その上で、町民自らが自分のこととして地域の緑の保全や緑化活動などに参画するとともに、健康づくりや地域コミュニティ活動に積極的に活用していくことが重要になります。

■事業者

CSR活動^{*}の一環として、緑化などの環境対策などに取り組むとともに、行政や活動団体などと連携して、地域とのつながりを深め、地域社会の自足的な発展に貢献するなど、持続可能な質の高い魅力と活力のある緑のまちづくりを進めるため、民間同士との連携や新しいアイデアの提案、柔軟な取り組みなど、事業者の積極的な緑のまちづくりへの参画を進めていくことが期待されています。

■行 政

本計画の具体的な施策を推進するとともに、施策の取り組み方の見直し、町民や事業者との協働体制づくり、緑に関する様々な活動が促進されるような機会の提供や場づくりを図り、緑のまちづくりが発展していくための環境整備を進めています。

2. 計画の進行管理

本計画の施策を実行するにあたり、計画の立案(Plan)、施策・事業の実施(Do)、進捗状況の把握・評価(Check)、改善・見直し(Action)のPDCAサイクルに基づく、計画の進行管理を行います。



*CSR活動：企業が利益追求だけでなく、社会・環境・人権・地域との関係性に責任を持って行動する取り組み

資料編

1. 緑地の整備目標総括表及び個別調査

第3章の「3. 計画の目標」に掲げる「目標1 緑地の目標水準」及び「目標2 都市公園等の施設として整備すべき緑地の目標水準」の令和7年の現況値及び令和32年の目標値となります。

〈緑地の整備目標総括表〉

年 次		現況（令和7年）								目標年次（令和32年）						
		用途地域				都市計画区域				用途地域				都市計画区域		
		整備量		m ² /人		整備量		m ² /人		整備量		m ² /人		整備量		
施設緑地種別		箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	
	住区基幹公園	15	3.84	2.19	15	3.84	1.64	16	4.11	3.25	17	4.18	2.48			
	近隣公園	1	1.82	1.04	2	3.77	1.61	1	1.82	1.44	2	3.77	2.23			
	地区公園															
	都市基幹公園					1	10.13	4.32				1	10.13	6.00		
	総合公園															
	運動公園															
	基幹公園計	16	5.66	3.23	18	17.74	7.57	17	5.93	4.69	20	18.08	10.71			
	風致公園					1	7.73	3.30				1	7.73	4.58		
	動植物公園															
	歴史公園															
	墓園															
	その他															
	広場公園	2	0.54	0.31	2	0.54	0.23	2	0.54	0.43	2	0.54	0.32			
	広域公園															
	緩衝緑地															
	都市緑地															
	緑道															
	都市林															
	国の設置によるもの															
	都市公園計	18	6.20	3.54	21	26.01	11.10	19	6.47	5.11	23	26.35	15.61			
	公共施設緑地	11	3.83	2.19	30	38.93	16.62	11	3.83	3.02	30	38.93	23.05			
	都市公園等合計	29	10.03	5.73	51	64.94	27.72	30	10.30	8.13	53	65.28	38.66			
	民間施設緑地															
	施設緑地計	29	10.03	5.73	51	64.94	27.72	30	10.30	8.13	53	65.28	38.66			
	特別緑地保全地区															
	風致地区	1	24.60	14.06	2	3,448.00	1,471.87	1	24.60	19.42	2	3,448.00	2,041.81			
	生産緑地地区															
	その他法によるもの	3	6.12	3.50	8	3,427.30	1,463.03	3	6.12	4.83	8	3,427.30	2,029.55			
	法によるもの計	4	30.72	17.56	10	6,875.30	2,934.90	4	30.72	24.26	10	6,875.30	4,071.36			
	緑地協定															
	条例等によるもの	8	7.68	4.39	9	7.74	3.30	8	7.68	6.06	9	7.74	4.58			
	小計	8	7.68	4.39	9	7.74	3.30	8	7.68	6.06	9	7.74	4.58			
	地域制緑地間の重複					3,421.18	1,460.42					3,421.18	2,025.93			
	地域制緑地計		38.40	21.94		3,461.86	1,477.79		38.40	30.32		3,461.86	2,050.01			
	施設・地域制緑地間の重複					44.17	18.86					44.17	26.16			
	緑地総計		48.43	27.67		3,482.63	1,486.65		48.70	38.45		3,482.97	2,062.52			
	人口	用途地域内人口								用途地域内人口						
		27,502 千人								12,665 千人						
	面積	用途地域面積								用途地域面積						
		399.00 ha								399.00 ha						
	緑地の確保目標水準	用途地域面積に対する割合								用途地域面積に対する割合						
		12.1 %								12.2 %						
	都市公園等の目標水準(住民一人当たりの面積)	都市計画区域面積に対する割合								都市計画区域面積に対する割合						
		85.0 %								85.0 %						
	都市公園	3.54 m ² /人								都市公園						
		27.72 m ² /人								38.66 m ² /人						

※現況値（令和7年）における都市計画区域内人口は令和2年国勢調査人口、用途地域内人口は国勢調査結果に基づき、都市計画基礎調査において算定した人口

施設緑地の整備目標個別調書

図面 対照 番号	種別	名称	都市計画 決定面積	現況	整備目標	令和7年				令和32年				備考
			R7年度末 現在 (ha)	R7年度末 現在 (ha)	目標年次 令和32年 (ha)	箇所	用途内	箇所	用途外	箇所	用途内	箇所	用途外	
街-1	街区公園	川端公園	0.36	0.36	0.36	●	0.36			●	0.36			
街-2	街区公園	蔵町公園	0.36	0.36	0.36	●	0.36			●	0.36			
街-3	街区公園	千暮公園	0.13	0.13	0.13	●	0.13			●	0.13			
街-4	街区公園	御庭公園	0.33	0.33	0.33	●	0.33			●	0.33			
街-5	街区公園	桜木公園	0.55	0.55	0.55	●	0.55			●	0.55			
街-6	街区公園	広崎公園	0.28	0.28	0.28	●	0.28			●	0.28			
街-7	街区公園	若宮公園	0.22	0.14	0.14	●	0.14			●	0.14			
街-8	街区公園	亀ヶ原公園	0.25	0.25	0.25	●	0.25			●	0.25			
街-9	街区公園	さくらんぼ公園	0.35	0.35	0.35	●	0.35			●	0.35			
街-10	街区公園	柵口公園	0.16	0.16	0.16	●	0.16			●	0.16			
街-11	街区公園	宮上公園	0.15	0.15	0.15	●	0.15			●	0.15			
街-12	街区公園	川堀公園	0.18	0.18	0.18	●	0.18			●	0.18			
街-13	街区公園	森下公園	0.23	0.23	0.23	●	0.23			●	0.23			
街-14	街区公園	ゆり公園	0.29	0.29	0.29	●	0.29			●	0.29			
街-15	街区公園	城堀公園	0.08	0.08	0.08	●	0.08			●	0.08			
街-16	街区公園	(仮)福浦幼稚園跡地公園			0.27					●	0.27			2,657m ² 整備時期未定
街-17	街区公園	(仮)奥湯河原公園			0.07						●	0.07		
街区公園計			3.92	3.84	4.18	15	3.84	0	0.00	16	4.11	1	0.07	
近-1	近隣公園	湯河原海浜公園	1.82	1.82	1.82	●	1.82			●	1.82			
近-2	近隣公園	万葉公園	1.95	1.95	1.95			●	1.95			●	1.95	風致地区と重複
近隣公園計			3.77	3.77	3.77	1	1.82	1	1.95	1	1.82	1	1.95	
総-1	総合公園	湯河原町総合運動公園	1013.00	10.13	10.13			●	10.13			●	10.13	
総合公園計			1013.00	10.13	10.13	0	0.00	1	10.13	0	0.00	1	10.13	
風公-1	風致公園	幕山公園	7.73	7.73	7.73			●	7.73			●	7.73	風致地区と重複
風致公園計			7.73	7.73	7.73	0	0.00	1	7.73	0	0.00	1	7.73	
広場-1	広場公園	湯河原海辺公園			0.48	0.48	●	0.48			●	0.48		
広場-2	広場公園	駅前ポケットパーク	0.06	0.06	0.06	●	0.06			●	0.06			
広場公園計			0.06	0.54	0.54	2	0.54	0	0.00	2	0.54	0	0.00	
児-1	公共施設緑地	方仙山児童遊園地	—	0.06	0.06	●	0.06			●	0.06			
児-2	公共施設緑地	福浦児童遊園地	—	0.15	0.15	●	0.15			●	0.15			
公共-1	公共施設緑地	湯河原小学校	—	0.66	0.66	●	0.66			●	0.66			
公共-2	公共施設緑地	吉浜小学校	—	0.41	0.41	●	0.41			●	0.41			
公共-3	公共施設緑地	東台福浦小学校	—	0.57	0.57	●	0.57			●	0.57			
公共-4	公共施設緑地	湯河原中学校	—	1.86	1.86	●	1.86			●	1.86			
開-1	開発・提供公園	日本ランドシステム公園	—	0.09	0.09			●	0.09			●	0.09	
開-2	開発・提供公園	若草山团地緑地	—	0.09	0.09			●	0.09			●	0.09	
開-3	開発・提供公園	鍛冶屋团地公園	—	0.07	0.07			●	0.07			●	0.07	
開-4	開発・提供公園	小松团地公園1	—	0.10	0.10			●	0.10			●	0.10	
開-5	開発・提供公園	小松团地公園2	—	0.04	0.04			●	0.04			●	0.04	
開-6	開発・提供公園	小松团地公園3	—	0.04	0.04			●	0.04			●	0.04	
開-7	開発・提供公園	金井堂緑地	—	0.01	0.01			●	0.01			●	0.01	
開-8	開発・提供公園	共立湯河原分譲	—	0.04	0.04			●	0.04			●	0.04	
開-9	開発・提供公園	共立鍛冶屋分譲(森下)	—	0.05	0.05			●	0.05			●	0.05	
開-10	開発・提供公園	白沼田児緑地1	—	0.01	0.01			●	0.01			●	0.01	
開-11	開発・提供公園	白沼田児緑地2(西脇)	—	0.01	0.01			●	0.01			●	0.01	
開-12	開発・提供公園	からさわ公園	—	0.02	0.02			●	0.02			●	0.02	
開-13	開発・提供公園	天保山緑地	—	0.02	0.02			●	0.02			●	0.02	
開-14	開発・提供公園	菖蒲沢公園	—	0.03	0.03	●	0.03			●	0.03			
開-15	開発・提供公園	オレンジヒル分譲公園	—	0.02	0.02			●	0.02			●	0.02	
開-16	開発・提供公園	桃園緑地	—	0.01	0.01	●	0.01			●	0.01			
開-17	開発・提供公園	千歳川沿ポケットパーク	—	0.06	0.06	●	0.06			●	0.06			
開-18	開発・提供公園	汐見橋緑地	—	0.01	0.01	●	0.01			●	0.01			
開-19	開発・提供公園	新崎川沿緑地	—	0.01	0.01	●	0.01			●	0.01			
郷-1		さつきの郷	14.11	14.11				●	14.11			●	14.11	
郷-2		コキアの郷	0.48	0.48				●	0.48			●	0.48	
郷-3		梅の郷	8.90	8.90				●	8.90			●	8.90	
郷-4		あじさいの郷	6.00	6.00				●	6.00			●	6.00	
郷-5		紅葉の郷	5.00	5.00				●	5.00			●	5.00	
公共施設緑地計			38.93	38.93	11	3.83	19	35.10	11	3.83	19	35.10		
風-1	風致地区	湯河原風致地区	—	3,436.00	3,436.00	●	24.60	●	3,411.40	●	24.60	●	3,411.40	
風-2	風致地区	福浦風致地区	—	12.00	12.00			●	12.00			●	12.00	
風致地区計			3,448.00	3,448.00	1	24.60	2	3,423.40	1	24.60	2	3,423.40		
国-1	その他法によるもの	富士箱根伊豆国立公園	—	261.00	261.00			●	261					

湯河原町緑の基本計画 改訂計画

令和8年3月発行

《発 行》 湯河原町

《編 集》 湯河原町まちづくり課

〒259-0392

神奈川県足柄下郡湯河原町中央二丁目2番地1

TEL 0465-63-2111(代表) FAX: 0465-64-1401

E-mail: kouen@town.yugawara.kanagawa.jp

令和7年12月3日 環境・観光常任員会資料

参考資料

湯河原町緑の基本計画改訂

住民アンケート調査報告書

令和7年10月

湯河原町

1. 調査の概要

1) 調査の目的

湯河原町では、令和6～7年度の2か年をかけ、「湯河原町都市マスタープラン」及び「湯河原町緑の基本計画」の改訂を行うこととしている。

本住民アンケート調査では、湯河原町都市マスタープラン及び湯河原町緑の基本計画の改訂を行うにあたり、広く町民の皆さまから意見を伺うため、町内にお住まいの18歳以上の方2,000名を無作為に抽出し、実施するものである。

2) 調査の方法

- (1) 調査地域：湯河原町全域
- (2) 調査対象：全町民（18歳以上）
- (3) 母集団：22,073人（令和7年1月1日現在）
- (4) 標本数：2,000票
- (5) 抽出方法：18歳以上の町民から無作為に抽出
- (6) 調査方法：郵送による発送・回収
- (7) 調査期間：令和7年1月16日～令和7年2月28日

3) 回収結果

- (1) 標本数：2,000票
- (2) 有効回収数：652票
- (3) 有効回収率：32.6%

2. 調査結果

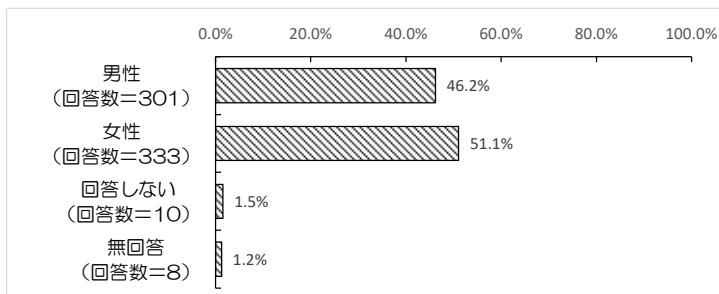
問1 あなたの性別は。

1. 男性

2. 女性

3. 回答しない

- 性別については、「女性」が 51.1%、「男性」が 46.2%で女性の回答率が高くなっている。
- 年齢別でみると、20~60 歳代までの回答者については全て「女性」が高くなっている。
- 居住地別でみると、第 1 地区、第 3 地区については男性が多く、第 2 地区、第 4 地区については女性が多い結果となっており、1 位はいずれも 5 割以上が回答している。

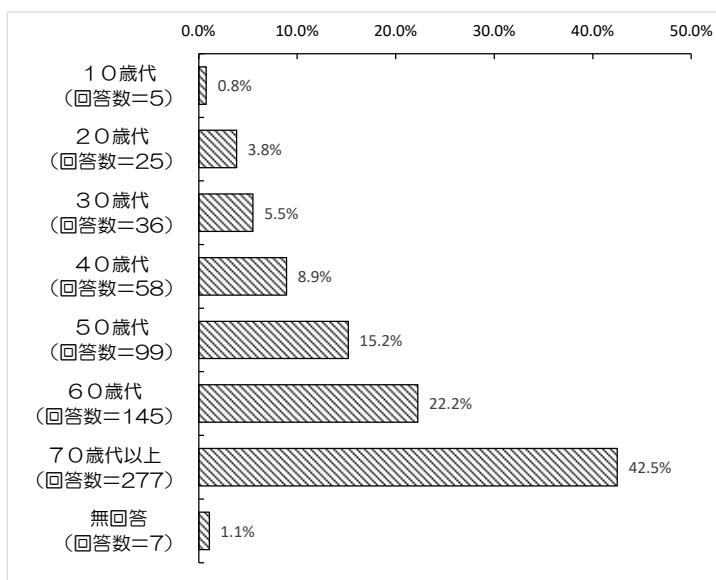


	1位	比率	2位	比率
総計	女性	51.1%	男性	46.2%
年齢	10歳代 男性	60.0%	女性	20.0%
	20歳代 女性	56.0%	男性	44.0%
	30歳代 女性	72.2%	男性	22.2%
	40歳代 女性	58.6%	男性	39.7%
	50歳代 女性	50.5%	男性	44.4%
	60歳代 男性	49.0%	女性	51.0%
	70歳代以上 男性	50.5%	女性	48.0%
居住地	第1地区 男性	55.9%	女性	44.1%
	第2地区 女性	53.3%	男性	45.5%
	第3地区 男性	51.6%	女性	47.3%
	第4地区 女性	51.7%	男性	45.2%

問2 あなたの年齢は。

- | | |
|---------|-----------|
| 1. 10歳代 | 5. 50歳代 |
| 2. 20歳代 | 6. 60歳代 |
| 3. 30歳代 | 7. 70歳代以上 |
| 4. 40歳代 | |

- 年齢については、年齢層が高くなるほど回答率も高くなるという結果になっており、最も高い「70歳代以上」では42.5%、最も低い「10歳代」では0.8%となっている。
- 居住地別でみると、第1地区では「70歳代以上」が50.0%となっており、高い回答率となっている。

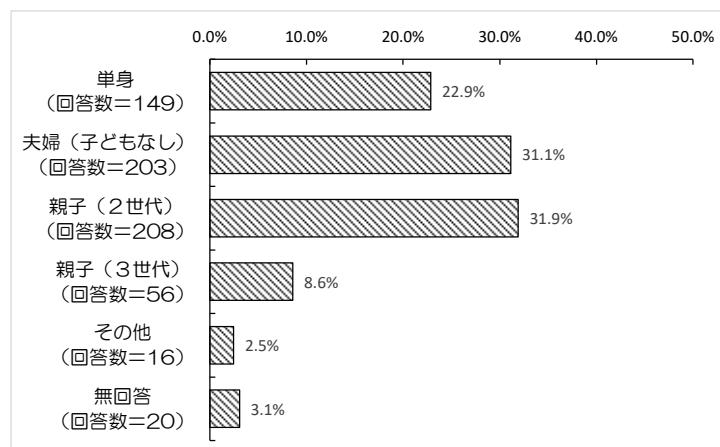


		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		70歳代以上	42.5%	60歳代	22.2%	50歳代	15.2%
性 別	男 性	70歳代以上	46.5%	60歳代	23.6%	50歳代	14.6%
	女 性	70歳代以上	39.9%	60歳代	22.2%	50歳代	15.0%
居住 地	第1地区	70歳代以上	50.0%	50歳代	20.6%	40歳代	8.8%
	第2地区	70歳代以上	39.8%	60歳代	24.4%	50歳代	16.3%
	第3地区	70歳代以上	49.5%	60歳代	23.1%	50歳代	16.5%
	第4地区	70歳代以上	40.5%	60歳代	21.2%	50歳代	13.5%

問3 あなたの家族構成は。

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 単身 | 4. 親子（3世代） |
| 2. 夫婦（子どもなし） | 5. その他（ ） |
| 3. 親子（2世代） | |

- ・家族構成については、「親子（2世代）」が 31.9%で最も高く、ついで「夫婦（子どもなし）」が 31.1%、「単身」が 22.9%となっている。
- ・性別でみると、男性では「夫婦（子どもなし）」が 32.9%、女性では「親子（2世代）」が 32.7%となっている。男女ともに1、2位は3割以上となっている。
- ・年齢別でみると、10~40 歳代までの回答者については「親子（2世代）」、50 歳代では「親子（3世代）」、60 歳代以上では「夫婦（子どもなし）」が1位となっている。
- ・居住地別でみると、第1地区については「夫婦（子どもなし）」「親子（2世代）」がともに 38.2%と高い割合で1位となっている。「単身」の回答率としては第2地区が最も高くなっている、26.0%となっている。

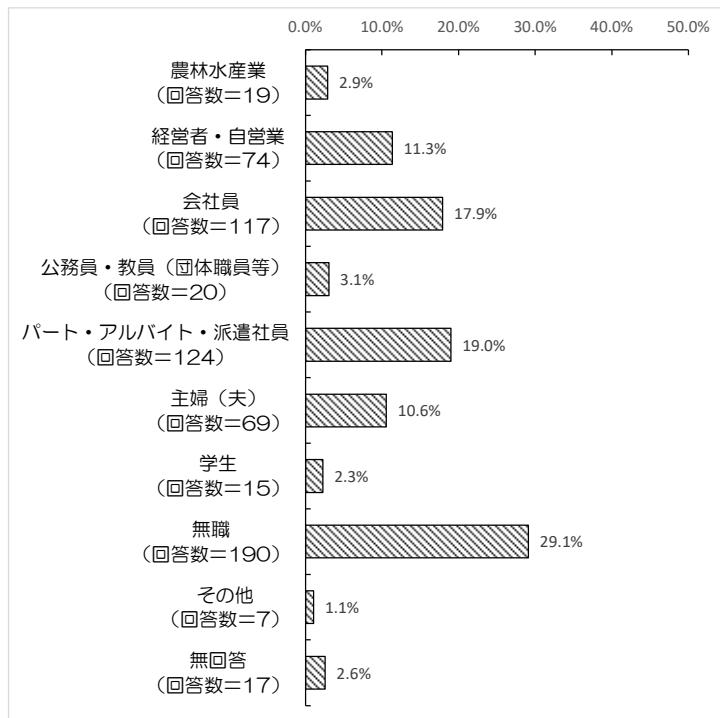


		1位	比率	2位	比率	3位	比率
性別	総計	親子（2世代）	31.9%	夫婦（子どもなし）	31.1%	単身	22.9%
	男性	夫婦（子どもなし）	32.9%	親子（2世代）	30.6%	単身	22.3%
	女性	親子（2世代）	32.7%	夫婦（子どもなし）	30.3%	単身	24.0%
年齢	10歳代	親子（2世代）	40.0%	単身 親子（3世代）	20.0%	-	-
	20歳代	親子（2世代）	56.0%	単身	28.0%	親子（3世代）	12.0%
	30歳代	親子（2世代）	44.4%	親子（3世代）	19.4%	単身	13.9%
	40歳代	親子（2世代）	65.5%	夫婦（子どもなし）	13.8%	夫婦（子どもなし）	12.1%
	50歳代	親子（3世代）	47.5%	夫婦（子どもなし）	22.2%	単身	19.2%
	60歳代	夫婦（子どもなし）	40.0%	親子（2世代）	23.4%	単身	21.4%
	70歳代以上	夫婦（子どもなし）	39.4%	単身	29.2%	親子（2世代）	20.2%
居住区	第1地区	夫婦（子どもなし） 親子（2世代）	38.2%	単身 親子（3世代）	11.8%	-	-
	第2地区	親子（2世代）	31.7%	夫婦（子どもなし）	29.7%	単身	26.0%
	第3地区	夫婦（子どもなし）	34.1%	親子（2世代）	27.5%	単身	22.0%
	第4地区	親子（2世代）	35.1%	夫婦（子どもなし）	29.7%	単身	21.6%

問4 あなたの職業は。（兼業の場合は、主とする職業）

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 農林水産業 | 6. 主婦（夫） |
| 2. 経営者・自営業 | 7. 学生 |
| 3. 会社員 | 8. 無職 |
| 4. 公務員・教員（団体職員等） | 9. その他（ ） |
| 5. パート・アルバイト・派遣社員 | |

- 職業については、「無職」が 29.1%で最も高くなっている。ついで「パート・アルバイト・派遣社員」が 19.0%、「会社員」が 17.9%で約 2割となっている。
- 性別でみると、男性では「無職」が 37.5%、女性では「パート・アルバイト・派遣社員」が 26.7%で 1位となっている。
- 年齢別でみると、10~20 歳代では「学生」、30~50 歳代では「会社員」、60 歳代では「パート・アルバイト・派遣社員」、70 歳代以上では「無職」が 1位となっている。その他、40~50 歳代では 3位が「経営者」となっており、約 1.5~2 割を占めている
- 居住地別でみると、第 1 地区のみ「経営者・自営業」「パート・アルバイト・派遣社員」が 29.4%で 1位となっている。

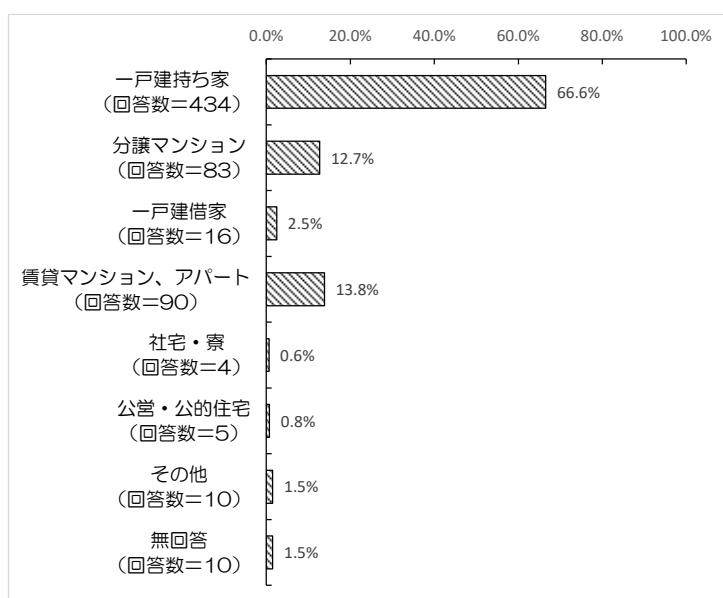


		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		無職	29.1%	パート・アルバイト・派遣社員	19.0%	会社員	17.9%
性別	男 性	無職	37.5%	会社員	22.9%	経営者・自営業	14.3%
	女 性	パート・アルバイト・派遣社員	26.7%	無職	21.9%	主婦(夫)	20.7%
年 齢	10歳代	学生	100.0%	-	-	-	-
	20歳代	学生	40.0%	会社員	24.0%	パート・アルバイト・派遣社員	20.0%
年 齢	30歳代	会社員	41.7%	パート・アルバイト・派遣社員	22.2%	公務員・教員(団体職員等)	13.9%
	40歳代	会社員	39.7%	パート・アルバイト・派遣社員	24.1%	経営者・自営業	20.7%
年 齢	50歳代	会社員	37.4%	パート・アルバイト・派遣社員	26.3%	経営者・自営業	14.1%
	60歳代	パート・アルバイト・派遣社員	28.3%	無職	22.1%	会社員	16.6%
年 齢	70歳代以上	無職	54.5%	主婦(夫)	14.8%	パート・アルバイト・派遣社員	10.5%
居 住 区	第1地区	経営者・自営業 パート・アルバイト・派遣社員	29.4%	無職	23.5%	会社員 公務員・教員(団体職員等) 主婦(夫)	5.9%
	第2地区	無職	27.6%	会社員	20.3%	パート・アルバイト・派遣社員	19.1%
	第3地区	無職	31.9%	会社員	19.8%	パート・アルバイト・派遣社員	14.3%
	第4地区	無職	30.9%	パート・アルバイト・派遣社員	20.1%	会社員	16.6%

問5 あなたの住まいは。

- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 一戸建持ち家 | 5. 社宅・寮 |
| 2. 分譲マンション | 6. 公営・公的住宅 |
| 3. 一戸建借家 | 7. その他() |
| 4. 賃貸マンション、アパート | |

- 住まいについては、「一戸建持ち家」が 66.6%で最も高くなっている。
- 年齢別でみると、1位においては全ての年齢層において「一戸建持ち家」1位となっている。2位では、10~50 歳代は「賃貸マンション、アパート」、60 歳代以上は「分譲マンション」の回答率が高い結果となっている。

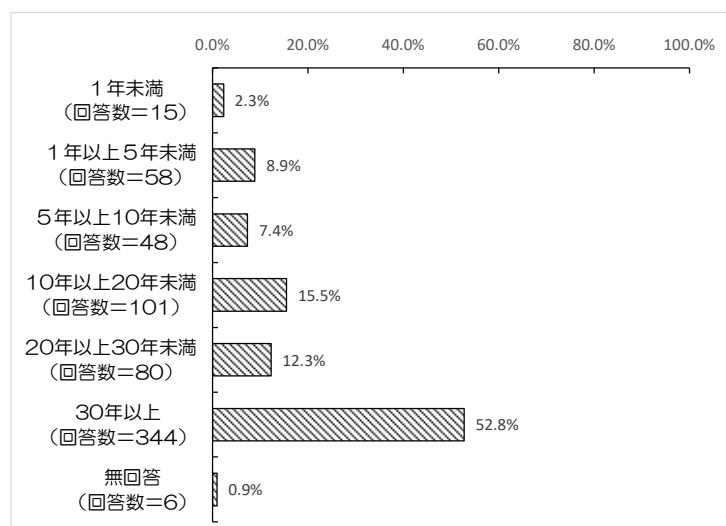


		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計		一戸建持ち家	66.6%	賃貸マンション、アパート	13.8%	分譲マンション	12.7%
性別	男性	一戸建持ち家	71.8%	分譲マンション	12.0%	賃貸マンション、アパート	10.6%
	女性	一戸建持ち家	64.0%	賃貸マンション、アパート	15.9%	分譲マンション	13.5%
年齢	10歳代	一戸建持ち家	80.0%	賃貸マンション、アパート	20.0%	-	-
	20歳代	一戸建持ち家	68.0%	賃貸マンション、アパート	20.0%	分譲マンション	8.0%
	30歳代	一戸建持ち家	52.8%	賃貸マンション、アパート	38.9%	分譲マンション	5.6%
	40歳代	一戸建持ち家	65.5%	賃貸マンション、アパート	24.1%	分譲マンション 一戸建借家	5.2%
	50歳代	一戸建持ち家	73.7%	賃貸マンション、アパート	17.2%	分譲マンション	8.1%
	60歳代	一戸建持ち家	72.4%	分譲マンション	13.8%	賃貸マンション、アパート	7.6%
	70歳代以上	一戸建持ち家	64.3%	分譲マンション	17.3%	賃貸マンション、アパート	9.8%
居住区	第1地区	一戸建持ち家	79.4%	賃貸マンション、アパート	8.8%	分譲マンション	5.9%
	第2地区	一戸建持ち家	52.9%	分譲マンション	22.0%	賃貸マンション、アパート	19.9%
	第3地区	一戸建持ち家	79.1%	賃貸マンション、アパート	5.5%	公営・公的住宅	4.4%
	第4地区	一戸建持ち家	75.3%	賃貸マンション、アパート	11.2%	分譲マンション	8.1%

問6 あなたの湯河原町における居住年数は。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 1年未満 | 4. 10年以上 20年未満 |
| 2. 1年以上5年未満 | 5. 20年以上30年未満 |
| 3. 5年以上 10年未満 | 6. 30年以上 |

- 居住年数については、「30年以上」が52.8%で最も高くなっている。
- 年齢別でみると、30歳代以上では全て「30年以上」が1位となっているが、2位では60歳代以上は「10年以上 20年未満」が高く、50歳代は「20年以上 30年未満」が高い結果となっている。
- 居住地別でみると、2位は「10年以上 20年未満」が高くなっているのに対し、第3地区のみ「20年以上 30年未満」が高い結果となっている。



	1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計	30年以上	52.8%	10年以上20年未満	15.5%	20年以上30年未満	12.3%
性別	男性	56.5%	10年以上20年未満	14.3%	20年以上30年未満	10.6%
	女性	50.8%	10年以上20年未満	17.1%	20年以上30年未満	13.8%
年齢	10歳代	10年以上20年未満	60.0%	1年以上5年未満	40.0%	-
	20歳代	20年以上30年未満	60.0%	1年以上5年未満	20.0%	10年以上20年未満
	30歳代	30年以上	41.7%	1年以上5年未満	22.2%	5年以上10年未満
	40歳代	30年以上	37.9%	10年以上20年未満	29.3%	20年以上30年未満
	50歳代	30年以上	50.5%	20年以上30年未満	16.2%	1年以上5年未満
	60歳代	30年以上	64.1%	10年以上20年未満	12.4%	5年以上10年未満
	70歳代以上	30年以上	58.8%	10年以上20年未満	17.0%	20年以上30年未満
居住区	第1地区	30年以上	50.0%	10年以上20年未満	29.4%	1年以上5年未満
	第2地区	30年以上	51.6%	10年以上20年未満	16.3%	20年以上30年未満
	第3地区	30年以上	49.5%	20年以上30年未満	17.6%	10年以上20年未満
	第4地区	30年以上	56.8%	10年以上20年未満	13.9%	20年以上30年未満

問7 あなたのお住まいの地区はどちらですか。

1. 第1地区 ※第1地区に含まれる住所

宮上 673～717・730～732・742～744・746～804
宮下 411～417・419～478・694～697・703～761
城掘 314～415 / 門川 457～477

2. 第2地区 ※第2地区に含まれる住所

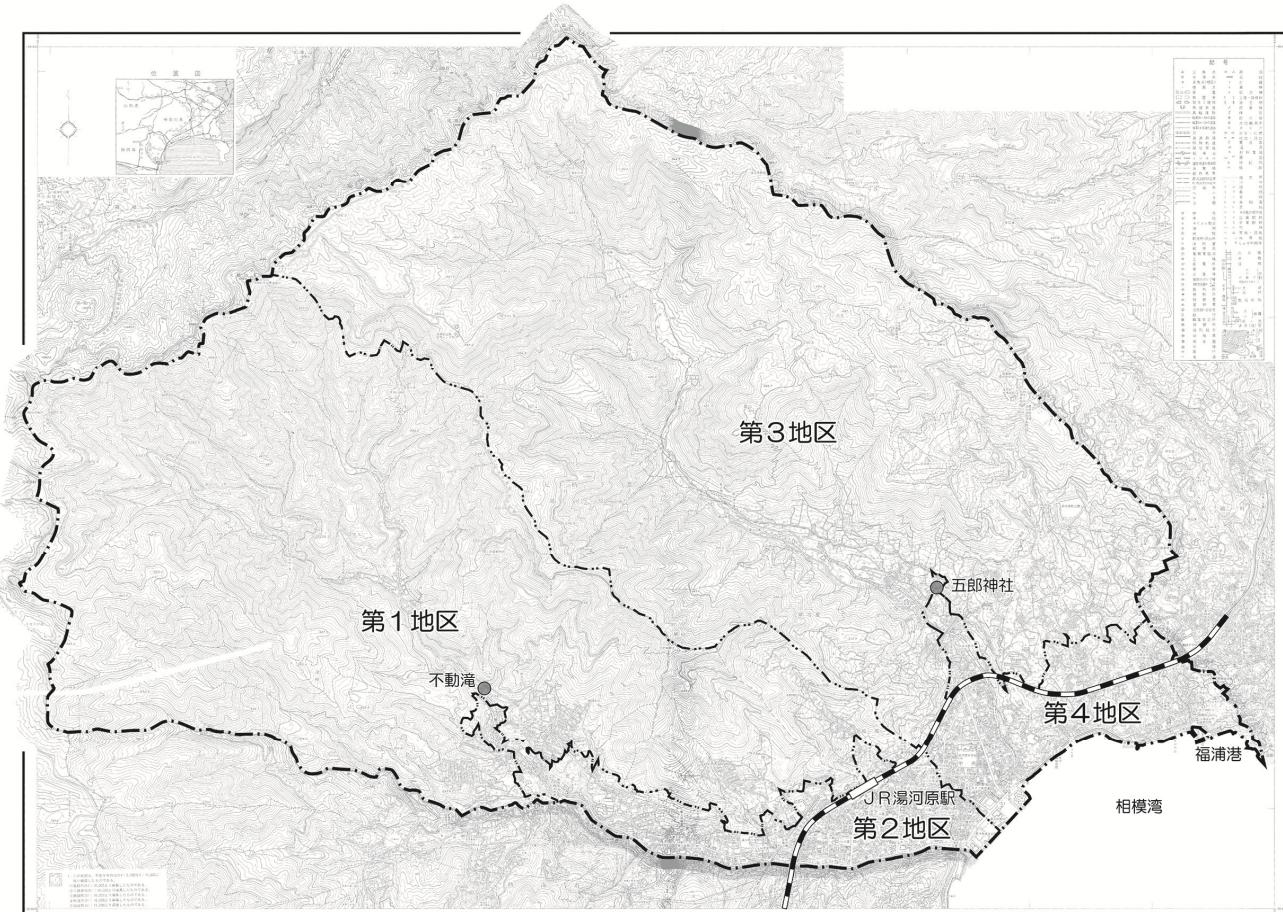
宮上 1～672・718～729・733～741・745
宮下 29～409・418・480～679・698～702・762～763
土肥 1丁目～6丁目 / 城掘 1～313 / 門川 1～456・478～517

3. 第3地区 ※第3地区に含まれる住所

鍛冶屋 313～368・421～468・509～520・557～632・713～717・728～956
吉浜 333～354・458～477・1839～1872・1882～1892・1896～1918・1932～2031

4. 第4地区 ※第4地区に含まれる住所

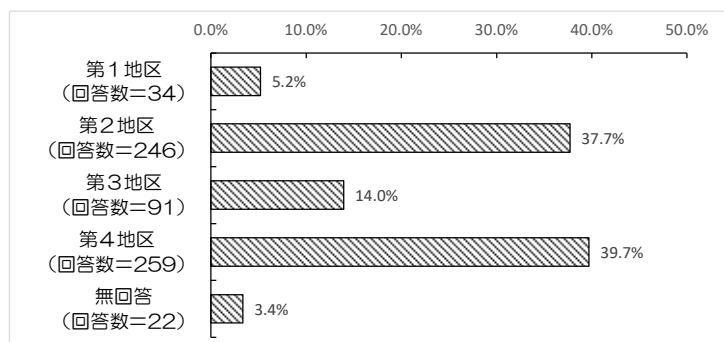
鍛冶屋 1～312・369～420・469～508・521～556・633～712・718～727
吉浜 1～332・355～457・478～1610・1873～1881・1893～1895・1919～1931
福浦 1～497 / 吉浜福浦 306～315 / 福浦吉浜 167～213 / 福浦鍛冶屋 939～946
中央 1丁目～5丁目



1. 第1地区
2. 第2地区

3. 第3地区
4. 第4地区

- お住いの地区については、「第4地区」が39.7%で最も高く、ついで「第2地区」が37.7%となっている。「第1地区」については5.2%で1割以下となっている。
- 年齢別でみると、20歳代は「第2地区」「第4地区」とともに44.0%で1位となっている。50~60歳代では「第2地区」が1位で約4割となっている。

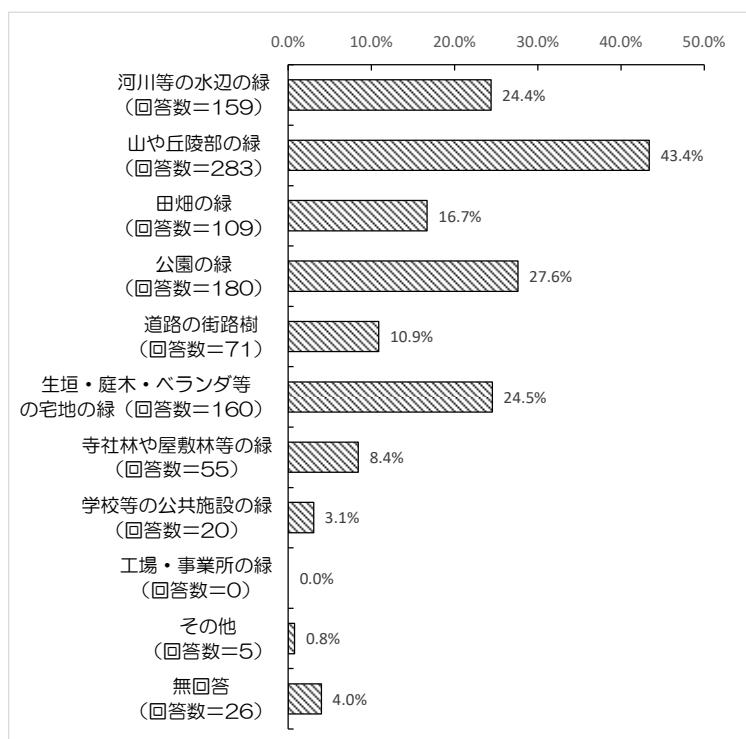


	1位	比率	2位	比率	3位	比率	
総計	第4地区	39.7%	第2地区	37.7%	第3地区	14.0%	
性別	男性	第4地区	38.9%	第3地区	15.6%	第2地区	37.2%
	女性	第4地区	40.2%	第3地区	12.9%	第2地区	39.3%
年齢	10歳代	第4地区	60.0%	第2地区	20.0%	-	-
	20歳代	第2地区 第4地区	44.0%	第3地区	12.0%	-	-
	30歳代	第4地区	52.8%	第2地区	36.1%	第3地区	8.3%
	40歳代	第4地区	50.0%	第2地区	37.9%	第1地区 第3地区	5.2%
	50歳代	第2地区	40.4%	第4地区	35.4%	第3地区	15.2%
	60歳代	第2地区	41.4%	第4地区	37.9%	第3地区	14.5%
	70歳代以上	第4地区	37.9%	第2地区	35.4%	第3地区	16.3%

問21 あなたがお住いの地区は、どのような緑が多いと思いますか。
次の中から、あてはまるものを2つ以内で選んでください。

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1. 河川等の水辺の緑 | 6. 生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑 |
| 2. 山や丘陵部の緑 | 7. 寺社林や屋敷林等の緑 |
| 3. 田畠の緑 | 8. 学校等の公共施設の緑 |
| 4. 公園の緑 | 9. 工場・事業所の緑 |
| 5. 道路の街路樹 | 10. その他 () |

- お住いの地区でどのような緑が多いかについては、「山や丘陵部の緑」が 43.4%で最も高くなっている。
- 性別でみると、男女ともに「山や丘陵部の緑」が 1位、「公園の緑」が 2位となっている。3位については男性が「河川等の水辺の緑」で 24.3%、女性が「生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑」で 27.6%となっている。
- 年齢別でみると、10 歳代では「山や丘陵部の緑」とともに「河川等の水辺の緑」が 40.0%で 1位、30 歳代では「公園の緑」が 41.7%で 1位となっている。
- 居住地別でみると、第 2 地区のみ「河川等の水辺の緑」が 40.2%で 1位となっており、2 位が「公園の緑」、3 位が「山や丘陵部の緑」でどちらも 3割以上となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		山や丘陵部の緑	43.4%	公園の緑	27.6%	生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑	24.5%
性別	男 性	山や丘陵部の緑	48.2%	公園の緑	25.2%	河川等の水辺の緑	24.3%
	女 性	山や丘陵部の緑	39.6%	公園の緑	30.6%	生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑	27.6%
年 齢	10歳代	河川等の水辺の緑 山や丘陵部の緑	40.0%	公園の緑 道路の街路樹 生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑 寺社林や屋敷林等の緑 学校等の公共施設の緑	20.0%	-	-
	20歳代	山や丘陵部の緑	40.0%	河川等の水辺の緑 公園の緑	32.0%	田畠の緑 生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑	16.0%
	30歳代	公園の緑	41.7%	河川等の水辺の緑	38.9%	山や丘陵部の緑	27.8%
	40歳代	山や丘陵部の緑	44.8%	生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑	27.6%	河川等の水辺の緑 公園の緑	25.9%
	50歳代	山や丘陵部の緑	55.6%	河川等の水辺の緑	31.3%	生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑	25.3%
	60歳代	山や丘陵部の緑	42.8%	公園の緑	26.9%	河川等の水辺の緑 生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑	24.1%
	70歳代以上	山や丘陵部の緑	42.6%	公園の緑	29.2%	生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑	26.4%
居 住 区	第1地区	山や丘陵部の緑	73.5%	田畠の緑	20.6%	河川等の水辺の緑 公園の緑	17.6%
	第2地区	河川等の水辺の緑	40.2%	公園の緑	35.8%	山や丘陵部の緑	32.5%
	第3地区	山や丘陵部の緑	68.1%	田畠の緑	39.6%	河川等の水辺の緑	17.6%
	第4地区	山や丘陵部の緑	40.5%	生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑	33.2%	公園の緑	26.6%

【その他の記載】

- ・草が多い。
- ・緑がない。

問22 あなたがお住まいの地区は、この10年ぐらいで緑は増えていると思いますか。
次の6つの中から、あてはまるものを1つ選んでください。

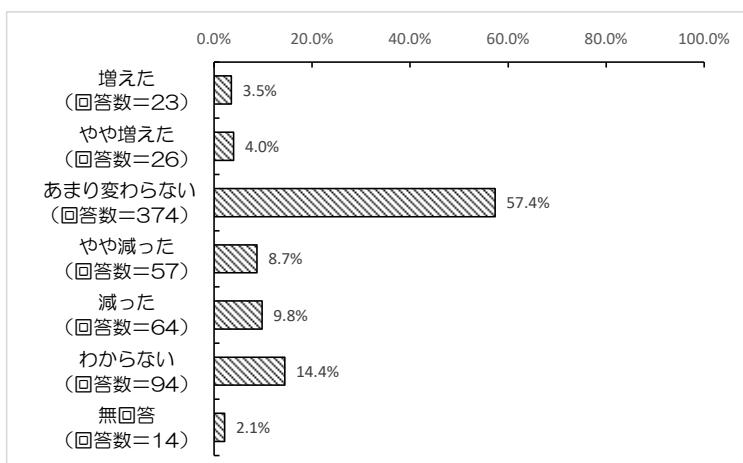
1. 増えた
2. やや増えた

3. あまり変わらない
4. やや減った

5. 減った
6. わからない

・お住まいの地区は、この10年で緑は増えているかつては、「あまり変わらない」が57.4%で最も高くなっている。

・性別、年齢別、居住地別でみると、「あまり変わらない」「わからない」という意見以外では「減った」「やや減った」という意見の回答率が高くなっている。第1地区については「やや増えた」が8.8%で3位となっている。

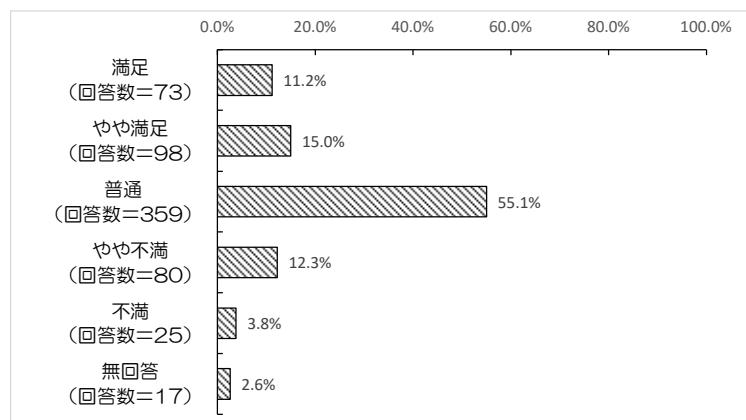


	1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計	あまり変わらない	57.4%	減った	9.8%	やや減った	8.7%
性 別	あまり変わらない	57.5%	わからない	13.3%	減った	10.6%
	あまり変わらない	58.9%	わからない	14.4%	減った	9.3%
年 齢	10歳代	あまり変わらない	60.0%	増えた わからない	20.0%	-
	20歳代	あまり変わらない	40.0%	わからない	28.0%	減った
	30歳代	あまり変わらない	41.7%	わからない	30.6%	やや減った
	40歳代	あまり変わらない	63.8%	わからない	15.5%	減った
	50歳代	あまり変わらない	62.6%	減った わからない	12.1%	やや減った
	60歳代	あまり変わらない	61.4%	わからない	15.9%	減った
	70歳代以上	あまり変わらない	56.0%	わからない	10.8%	やや減った
居 住 区	第1地区	あまり変わらない	67.6%	わからない	14.7%	やや増えた
	第2地区	あまり変わらない	61.0%	わからない	17.1%	減った
	第3地区	あまり変わらない	51.6%	わからない	8.8%	やや減った 減った
	第4地区	あまり変わらない	55.6%	わからない	13.9%	減った

問23 あなたがお住まいの地区の緑の“量”について、どう思いますか。
次のの中から、あてはまるものを1つ選んでください。

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

- お住まいの地区の緑の“量”については、「普通」が55.1%で最も高くなっている。
- 年齢別でみると、2位では「やや満足」「満足」という意見の回答率が高い一方で、20歳代、40歳代、70歳代以上では「やや不満」という意見が上位となっている。
- 居住地別でみると、2位以降では第1地区、第3地区については「満足」「やや満足」、第2地区、第4地区については「やや満足」「やや不満」という意見が上位となっている。

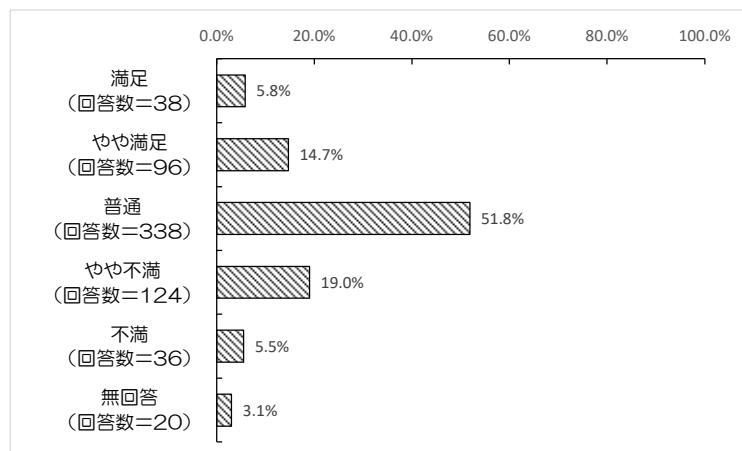


		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		普通	55.1%	やや満足	15.0%	やや不満	12.3%
性 別	男 性	普通	59.1%	やや満足	14.0%	やや不満	10.6%
	女 性	普通	51.4%	やや満足	16.2%	やや不満	13.8%
年 齢	10歳代	普通	60.0%	やや満足	40.0%	-	-
	20歳代	普通	48.0%	満足 やや満足 やや不満	16.0%	-	-
	30歳代	普通	69.4%	やや満足	16.7%	満足	8.3%
	40歳代	普通	63.8%	やや不満	19.0%	やや満足	8.6%
	50歳代	普通	56.6%	満足	16.2%	やや不満	11.1%
	60歳代	普通	55.2%	やや満足	15.2%	満足	12.4%
	70歳代以上	普通	52.0%	やや不満	13.4%	やや満足	17.0%
居 住 区	第1地区	普通	50.0%	満足	20.6%	やや満足	17.6%
	第2地区	普通	52.0%	やや満足	16.3%	やや不満	15.9%
	第3地区	普通	46.2%	満足	20.9%	やや満足	15.4%
	第4地区	普通	61.0%	やや満足	13.1%	やや不満	12.0%

問24 あなたがお住まいの地区の緑の“質”について、どう思いますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

- お住まいの地区の緑の“質”については、「普通」が 51.8%で最も高くなっている。
- 年齢別でみると、2位では「やや不満」という意見の回答率が高くなっている一方で、10歳代では「やや満足」が 20.0%、70歳代以上では「やや不満」とともに「やや満足」が 17.0%となっている。
- 居住地別でみると、全ての地区で1位が「普通」、2位が「やや不満」となっている。第3地区については「やや不満」が2割以上と他の地区と比較して若干高くなっている。第1地区の3位については「やや満足」とともに「満足」も 14.7%となっている。

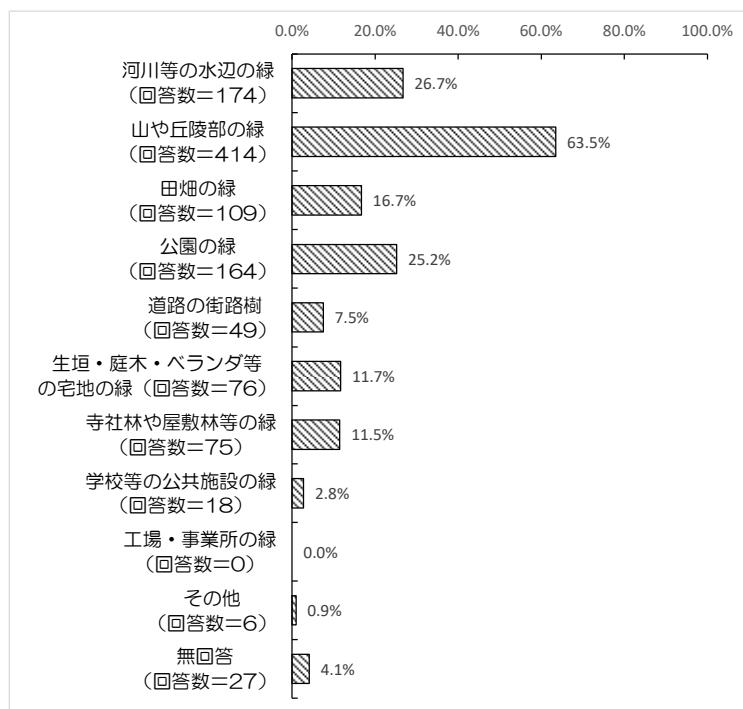


	1位	比率	2位	比率	3位	比率	
総 計	普通	51.8%	やや不満	19.0%	やや満足	14.7%	
性別	男性	普通	54.5%	やや不満	18.3%	やや満足	11.0%
	女性	普通	49.8%	やや不満	19.2%	やや満足	18.3%
年齢	10歳代	普通	80.0%	やや満足	20.0%	-	-
	20歳代	普通	56.0%	やや不満	20.0%	やや満足	16.0%
	30歳代	普通	63.9%	やや不満	16.7%	やや満足	8.3%
	40歳代	普通	36.2%	やや不満	34.5%	やや満足	12.1%
	50歳代	普通	48.5%	やや不満	19.2%	やや満足	15.2%
	60歳代	普通	57.9%	やや不満	15.2%	やや満足	11.7%
	70歳代以上	普通	51.6%	やや満足	17.0%	やや不満	18.1%
居住区	第1地区	普通	47.1%	やや不満	17.6%	満足	14.7%
	第2地区	普通	50.4%	やや不満	18.3%	やや満足	17.9%
	第3地区	普通	39.6%	やや不満	22.0%	やや満足	14.3%
	第4地区	普通	57.9%	やや不満	18.1%	やや満足	12.0%

問25 湯河原町全体では、どのような緑が多いと思いますか。
次の中から、あてはまるものを2つ以内で選んでください。

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1. 河川等の水辺の緑 | 6. 生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑 |
| 2. 山や丘陵部の緑 | 7. 寺社林や屋敷林等の緑 |
| 3. 田畠の緑 | 8. 学校等の公共施設の緑 |
| 4. 公園の緑 | 9. 工場・事業所の緑 |
| 5. 道路の街路樹 | 10. その他 () |

- ・湯河原町全体でどのような緑が多いかについては、「山や丘陵部の緑」が 63.5%で最も高くなっている。
- ・年齢別でみると、1位では「山や丘陵部の緑」、2位では「河川等の水辺の緑」の回答率が高くなっている中で、60歳代では「公園の緑」が 24.8%で2位となっている。
- ・居住地別でみると、2位では、第3地区が「田畠の緑」で 34.1%、第4地区が「公園の緑」で 22.0%となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		山や丘陵部の緑	63.5%	河川等の水辺の緑	26.7%	公園の緑	25.2%
性別	男 性	山や丘陵部の緑	67.8%	河川等の水辺の緑	24.6%	公園の緑	23.9%
	女 性	山や丘陵部の緑	60.1%	河川等の水辺の緑	28.8%	公園の緑	26.7%
年 齢	10歳代	山や丘陵部の緑	80.0%	河川等の水辺の緑 公園の緑 道路の街路樹 生垣・庭木・ベランダ等の宅地の緑 寺社林や屋敷林等の緑	20.0%	-	-
	20歳代	山や丘陵部の緑	52.0%	河川等の水辺の緑	32.0%	公園の緑	20.0%
	30歳代	山や丘陵部の緑	75.0%	河川等の水辺の緑	47.2%	公園の緑	30.6%
	40歳代	山や丘陵部の緑	82.8%	河川等の水辺の緑	29.3%	田畠の緑	25.9%
	50歳代	山や丘陵部の緑	71.7%	河川等の水辺の緑	34.3%	公園の緑	16.2%
	60歳代	山や丘陵部の緑	64.1%	公園の緑	24.8%	河川等の水辺の緑	22.8%
	70歳代以上	山や丘陵部の緑	56.3%	河川等の水辺の緑	22.4%	公園の緑	28.2%
居 住 区	第1地区	山や丘陵部の緑	85.3%	河川等の水辺の緑	38.2%	田畠の緑	17.6%
	第2地区	山や丘陵部の緑	56.9%	河川等の水辺の緑	40.7%	公園の緑	32.5%
	第3地区	山や丘陵部の緑	69.2%	田畠の緑	34.1%	河川等の水辺の緑	18.7%
	第4地区	山や丘陵部の緑	66.4%	公園の緑	22.0%	田畠の緑	18.9%

【その他の記載】

- ・草が多い。
- ・雑木、草。

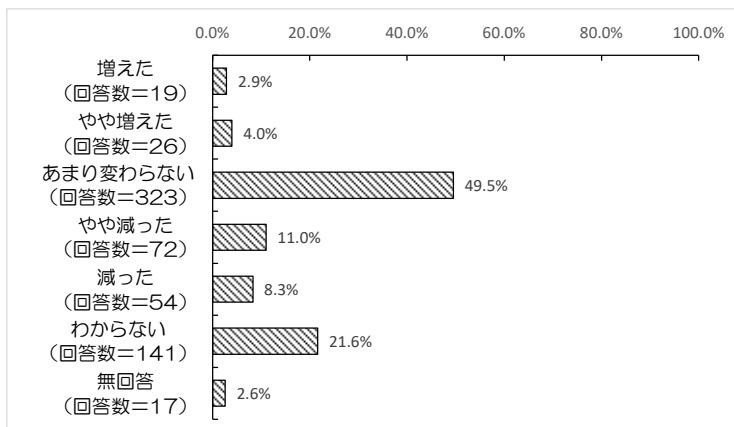
問26 湯河原町全体では、この10年ぐらいで緑は増えていると思いますか。
次のものから、あてはまるものを1つ選んでください。

1. 増えた
2. やや増えた

3. あまり変わらない
4. やや減った

5. 減った
6. わからない

- ・湯河原町全体では、この10年で緑は増えているかについては、「あまり変わらない」が49.5%で最も高くなっている。
- ・年齢別でみると、20歳代のみ「わからない」が1位となっており、その他全ての年齢層で「あまり変わらない」が1位となっている。2位以降については「わからない」という回答以外では「やや減った」「減った」という意見の回答率が高くなっている。
- ・居住地別でみると、第3地区については2位が「やや減った」で18.7%となっている。3位では第1地区は「増えた」が8.8%、第2地区は「減った」が9.4%となっている。

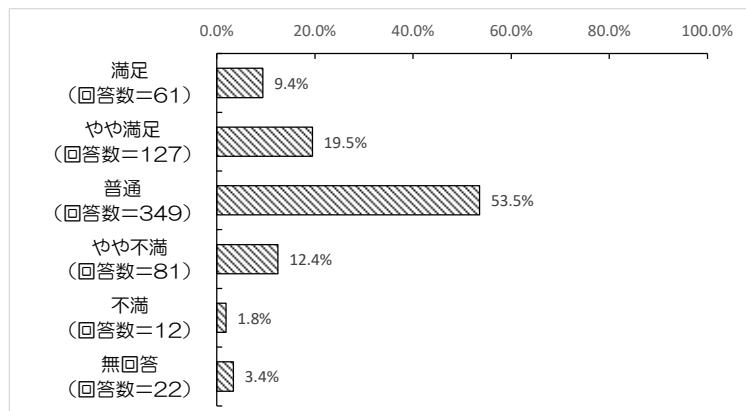


	1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計	あまり変わらない	49.5%	わからない	21.6%	やや減った	11.0%
性別	男性	あまり変わらない	51.8%	わからない	20.3%	やや減った
	女性	あまり変わらない	49.2%	わからない	22.2%	やや減った
年齢	10歳代	あまり変わらない	80.0%	わからない	20.0%	-
	20歳代	わからない	44.0%	あまり変わらない	24.0%	やや減った
	30歳代	あまり変わらない	38.9%	わからない	36.1%	やや減った
	40歳代	あまり変わらない	58.6%	わからない	24.1%	減った
	50歳代	あまり変わらない	44.4%	わからない	28.3%	減った
	60歳代	あまり変わらない	51.7%	わからない	21.4%	やや減った
	70歳代以上	あまり変わらない	52.0%	やや減った	12.3%	わからない
居住区	第1地区	あまり変わらない	58.8%	わからない	26.5%	増えた
	第2地区	あまり変わらない	54.9%	わからない	21.1%	減った
	第3地区	あまり変わらない	39.6%	やや減った	18.7%	わからない
	第4地区	あまり変わらない	48.3%	わからない	23.9%	やや減った

問27 湯河原町全体の緑の“量”について、どう思いますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

- ・湯河原町全体の緑の“量”については、「普通」が53.5%で最も高くなっている。
- ・年齢別でみると、全ての年齢層で1位は「普通」、2位は「やや満足」となっている。3位については、20歳代では「満足」で8.0%、30歳代は「満足」とともに「やや不満」が13.9%となっており、40歳代以上の年齢層では「やや不満」が上位となっている。
- ・居住地別でみると、第1地区の2位については「満足」が26.5%となっているが、3位では「やや満足」とともに「やや不満」が17.6%となっている。

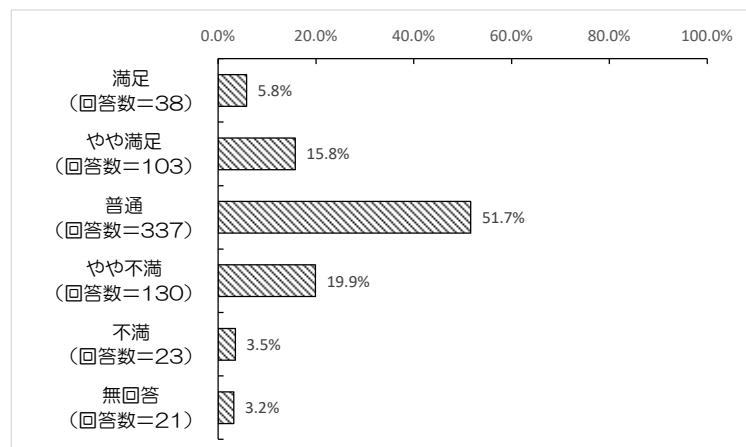


		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		普通	53.5%	やや満足	19.5%	やや不満	12.4%
性 別	男 性	普通	53.8%	やや満足	19.3%	やや不満	12.6%
	女 性	普通	52.9%	やや満足	19.8%	やや不満	12.6%
年 齢	10歳代	普通	60.0%	やや満足	40.0%	満足	8.0%
	20歳代	普通	56.0%	やや満足	28.0%	満足	13.9%
	30歳代	普通	55.6%	やや満足	22.2%	やや不満	12.1%
	40歳代	普通	63.8%	やや満足	15.5%	やや不満	11.1%
	50歳代	普通	53.5%	やや満足	23.2%	やや不満	13.8%
	60歳代	普通	54.5%	やや満足	15.9%	やや不満	13.4%
	70歳代以上	普通	51.3%	やや満足	18.8%	やや不満	17.6%
居 住 区	第1地区	普通	35.3%	満足	26.5%	やや満足	15.0%
	第2地区	普通	49.6%	やや満足	19.1%	やや不満	8.8%
	第3地区	普通	46.2%	やや満足	28.6%	満足	11.6%
	第4地区	普通	61.8%	やや満足	16.2%	やや不満	-

問28 湯河原町全体の緑の“質”について、どう思いますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

- ・湯河原町全体の緑の“質”については、「普通」が51.7%で最も高くなっている。
- ・年齢別でみると、10歳代は「やや満足」が20.0%、30歳代は「やや不満」とともに「やや満足」が16.7%で2位となっている。
- ・居住地別でみると、第3地区は「やや満足」が25.3%で2位となっている。

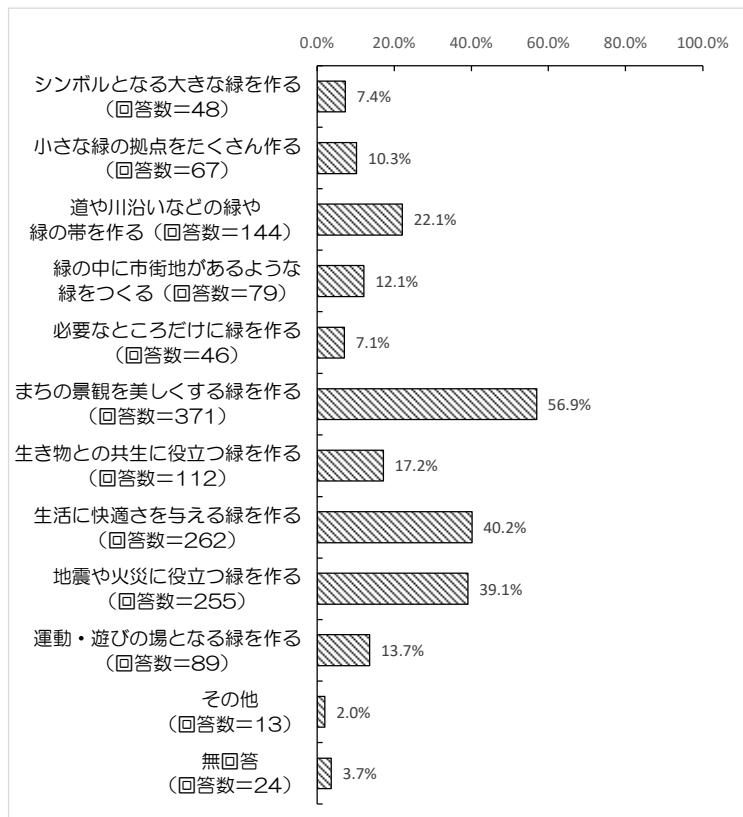


	1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計	普通	51.7%	やや不満	19.9%	やや満足	15.8%
性 別	男性	51.2%	やや不満	20.6%	やや満足	15.3%
	女性	52.3%	やや不満	19.2%	やや満足	16.5%
年 齢	10歳代	普通	80.0%	やや満足	20.0%	-
	20歳代	普通	60.0%	やや不満	16.0%	やや満足
	30歳代	普通	58.3%	やや満足	16.7%	満足
	40歳代	普通	51.7%	やや不満	27.6%	やや満足
	50歳代	普通	50.5%	やや不満	23.2%	やや満足
	60歳代	普通	53.8%	やや不満	21.4%	やや満足
	70歳代以上	普通	49.8%	やや不満	17.3%	やや満足
居 住 区	第1地区	普通	44.1%	やや不満	26.5%	やや満足
	第2地区	普通	50.4%	やや不満	19.1%	やや満足
	第3地区	普通	35.2%	やや満足	25.3%	やや不満
	第4地区	普通	58.7%	やや不満	18.9%	やや満足

問29 あなたは、今後の緑づくりの目標として、ふさわしいと思うことは何ですか。
次のものから、あてはまるものを3つ以内で選んでください。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. シンボルとなる大きな緑を作る | 6. まちの景観を美しくする緑を作る |
| 2. 小さな緑の拠点をたくさん作る | 7. 生き物との共生に役立つ緑を作る |
| 3. 道や川沿いなどの緑や緑の帯を作る | 8. 生活に快適さを与える緑を作る |
| 4. 緑の中に市街地があるような緑をつくる | 9. 地震や火災に役立つ緑を作る |
| 5. 必要なところだけに緑を作る | 10. 運動・遊びの場となる緑を作る |
| | 11. その他 () |

- 今後の緑づくりの目標については、「まちの景観を美しくする緑を作る」が 56.9%で最も高く、ついで「生活に快適さを与える緑を作る」が 40.2%、「地震や火災に役立つ緑を作る」が 39.1%となっている。
- 性別でみると、2位については、男性では「生活に快適さを与える緑を作る」が 38.2%、女性では「地震や火災に役立つ緑を作る」が 42.6%、3位については、男性では「地震や火災に役立つ緑を作る」が 35.5%、女性では「生活に快適さを与える緑を作る」が 42.0%と2位、3位ともに約4割となっている。
- 年齢別でみると、10歳代のみ「地震や火災に役立つ緑を作る」が 80.0%で1位となっている。30歳代の2位、20歳代の3位では「生き物との共生に役立つ緑を作る」が約4割で上位となっている。
- 居住地別でみると、第1地区のみ「地震や火災に役立つ緑を作る」が 52.9%で1位となっている。「道や川沿いなどの緑や緑の帯を作る」についても 26.5%と上位になっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		まちの景観を美しくする緑を作る	56.9%	生活に快適さを与える緑を作る	40.2%	地震や火災に役立つ緑を作る	39.1%
性別	男 性	まちの景観を美しくする緑を作る	57.5%	生活に快適さを与える緑を作る	38.2%	地震や火災に役立つ緑を作る	35.5%
	女 性	まちの景観を美しくする緑を作る	58.3%	地震や火災に役立つ緑を作る	42.6%	生活に快適さを与える緑を作る	42.0%
年 齢	10歳代	地震や火災に役立つ緑を作る	80.0%	生活に快適さを与える緑を作る	60.0%	小さな緑の拠点をたくさん作る 緑の中に市街地があるような緑を作る まちの景観を美しくする緑を作る	40.0%
	20歳代	まちの景観を美しくする緑を作る	68.0%	地震や火災に役立つ緑を作る	48.0%	生き物との共生に役立つ緑を作る	36.0%
	30歳代	まちの景観を美しくする緑を作る	52.8%	生き物との共生に役立つ緑を作る	38.9%	生活に快適さを与える緑を作る	36.1%
	40歳代	まちの景観を美しくする緑を作る	69.0%	地震や火災に役立つ緑を作る	37.9%	生活に快適さを与える緑を作る	32.8%
	50歳代	まちの景観を美しくする緑を作る	43.4%	地震や火災に役立つ緑を作る	39.4%	道や川沿いなどの緑や緑の帯を作る	25.3%
	60歳代	まちの景観を美しくする緑を作る	62.8%	生活に快適さを与える緑を作る	42.8%	地震や火災に役立つ緑を作る	37.9%
	70歳代以上	まちの景観を美しくする緑を作る	56.7%	生活に快適さを与える緑を作る	41.5%	地震や火災に役立つ緑を作る	39.7%
居住区	第1地区	地震や火災に役立つ緑を作る	52.9%	まちの景観を美しくする緑を作る	50.0%	道や川沿いなどの緑や緑の帯を作る	26.5%
	第2地区	まちの景観を美しくする緑を作る	52.4%	生活に快適さを与える緑を作る	39.8%	地震や火災に役立つ緑を作る	37.0%
	第3地区	まちの景観を美しくする緑を作る	61.5%	生活に快適さを与える緑を作る	36.3%	地震や火災に役立つ緑を作る	33.0%
	第4地区	まちの景観を美しくする緑を作る	60.2%	生活に快適さを与える緑を作る	45.6%	地震や火災に役立つ緑を作る	42.5%

【その他の記載】

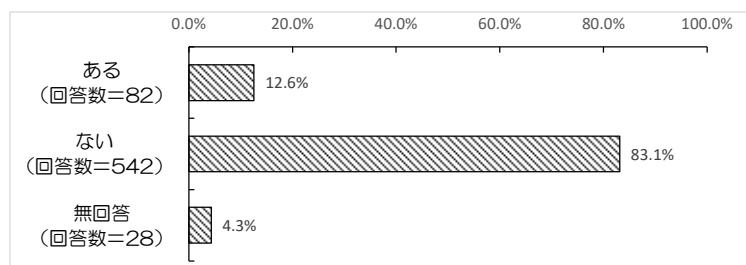
- ・メンテナンス。
- ・川を昔の生物多様性のある姿に戻して欲しい。
- ・耕作放棄地の整備、草刈り。
- ・農地の整備（観光含む）。

問30 あなたは、緑化活動や自然環境保全活動に参加したことがありますか。
次のものから、あてはまるものを選んでください。

1. ある > 【問31へ】

2. ない > 【問32へ】

- ・緑化活動や自然環境保全活動への参加については、「ない」が 83.1%、「ある」が 12.6%となっている。
- ・性別、年齢別、居住地別でみると、全ての回答者層で「ない」は8割以上となっている。「ある」という意見については 10 歳代が 20.0%、30 歳代が 16.7%で約2割となっている。



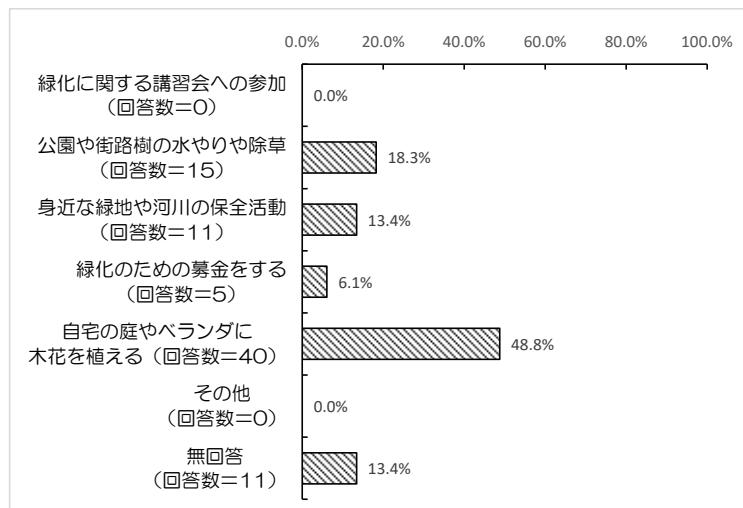
	1位	比率	2位	比率
総 計	ない	83.1%	ある	12.6%
性 別	ない	83.1%	ある	13.0%
	ない	83.8%	ある	12.6%
年 齢	ない	80.0%	ある	20.0%
	ない	88.0%	ある	8.0%
	ない	83.3%	ある	16.7%
	ない	84.5%	ある	12.1%
	ない	81.8%	ある	12.1%
	ない	85.5%	ある	11.0%
	ない	81.9%	ある	13.7%
居 住 区	ない	85.3%	ある	11.8%
	ない	86.6%	ある	9.8%
	ない	80.2%	ある	15.4%
	ない	80.3%	ある	15.1%

問31 問30で「1」と回答した方にお聞きします。

どのような活動に参加したことがありますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 緑化に関する講習会への参加 | 4. 緑化のための募金をする |
| 2. 公園や街路樹の水やりや除草 | 5. 自宅の庭やベランダに木花を植える |
| 3. 身近な緑地や河川の保全活動 | 6. その他 () |

- ・どのような活動に参加したことがあるかについては、「自宅の庭やベランダに木花を植える」が 48.8% で最も高くなっている。
- ・年齢別でみると、20 歳代では「自宅の庭やベランダに木花を植える」とともに「緑化のための募金をする」が 50.0%、70 歳代以上では「自宅の庭やベランダに木花を植える」とともに「公園や街路樹の水やりや除草」が 34.2% で 1 位となっている。
- ・居住地別でみると、第 1 地区については「身近な緑地や河川の保全活動」が 25.0% で 2 位となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計		自宅の庭やベランダに木花を植える	48.8%	公園や街路樹の水やりや除草	18.3%	身近な緑地や河川の保全活動	13.4%
性別	男性	自宅の庭やベランダに木花を植える	33.3%	公園や街路樹の水やりや除草	28.2%	身近な緑地や河川の保全活動	20.5%
	女性	自宅の庭やベランダに木花を植える	61.9%	公園や街路樹の水やりや除草	9.5%	身近な緑地や河川の保全活動	7.1%
年齢	10歳代	自宅の庭やベランダに木花を植える	100.0%	-	-	-	-
	20歳代	自宅の庭やベランダに木花を植える 緑化のための募金をする	50.0%	-	-	-	-
	30歳代	自宅の庭やベランダに木花を植える	66.7%	公園や街路樹の水やりや除草 緑化のための募金をする	16.7%	-	-
	40歳代	自宅の庭やベランダに木花を植える	57.1%	身近な緑地や河川の保全活動 緑化のための募金をする	14.3%	-	-
	50歳代	自宅の庭やベランダに木花を植える	66.7%	身近な緑地や河川の保全活動	16.7%	緑化のための募金をする	8.3%
	60歳代	自宅の庭やベランダに木花を植える	56.3%	身近な緑地や河川の保全活動	18.8%	公園や街路樹の水やりや除草	6.3%
	70歳代以上	自宅の庭やベランダに木花を植える 公園や街路樹の水やりや除草	34.2%	身近な緑地や河川の保全活動	13.2%	緑化のための募金をする	2.6%
居住区	第1地区	自宅の庭やベランダに木花を植える	50.0%	身近な緑地や河川の保全活動	25.0%	-	-
	第2地区	自宅の庭やベランダに木花を植える	50.0%	公園や街路樹の水やりや除草	16.7%	身近な緑地や河川の保全活動	12.5%
	第3地区	自宅の庭やベランダに木花を植える	42.9%	公園や街路樹の水やりや除草	14.3%	身近な緑地や河川の保全活動 緑化のための募金をする	7.1%
	第4地区	自宅の庭やベランダに木花を植える	51.3%	公園や街路樹の水やりや除草	23.1%	身近な緑地や河川の保全活動	15.4%

【その他の記載】

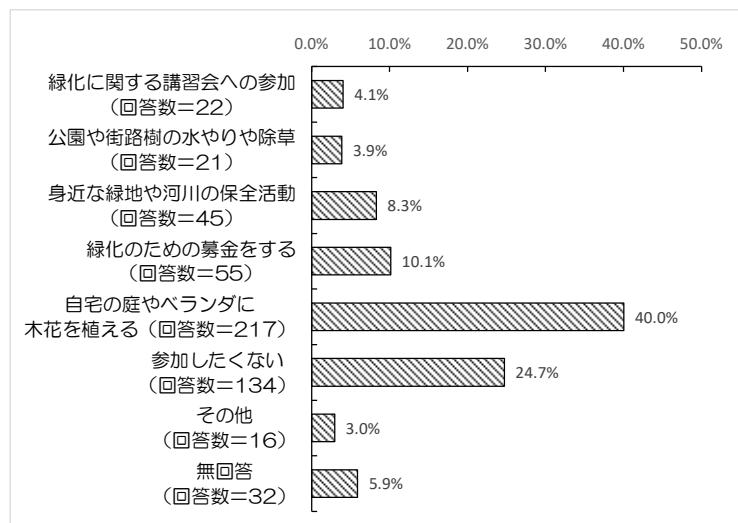
なし

問32 問30で「2」と回答した方にお聞きします。

これから参加したい活動はありますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 緑化に関する講習会への参加 | 5. 自宅の庭やベランダに木花を植える |
| 2. 公園や街路樹の水やりや除草 | 6. 参加したくない ➤ 【問33へ】 |
| 3. 身近な緑地や河川の保全活動 | 7. その他（ ） |
| 4. 緑化のための募金をする | |

- これから参加したい活動については、「自宅の庭やベランダに木花を植える」が 40.0%で最も高く、ついで「参加したくない」が 24.7%となっている。
- 年齢別でみると 30 歳代では「参加したくない」が 36.7%、40 歳代では「自宅の庭やベランダに木花を植える」とともに「参加したくない」が 32.7%で 1 位となっている。2 位については、10 歳代で「身近な緑地や河川の保全活動」が「参加したくない」とともに 25.0%、40 歳代で「緑化のための募金をする」が 14.3%となっている。
- 居住地別でみると、第 1 地区、第 3 地区については「身近な緑地や河川の保全活動」、第 2 地区、第 4 地区については「緑化のために募金をする」が約 1 割で 3 位となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計		自宅の庭やベランダに木花を植える	40.0%	参加したくない	24.7%	緑化のための募金をする	10.1%
性別	男性	自宅の庭やベランダに木花を植える	35.2%	参加したくない	26.4%	身近な緑地や河川の保全活動	13.6%
	女性	自宅の庭やベランダに木花を植える	44.4%	参加したくない	22.2%	緑化のための募金をする	11.1%
年齢	10歳代	自宅の庭やベランダに木花を植える	50.0%	身近な緑地や河川の保全活動 参加したくない	25.0%	-	-
	20歳代	自宅の庭やベランダに木花を植える	54.5%	参加したくない	18.2%	公園や街路樹の水やりや除草	13.6%
	30歳代	参加したくない	36.7%	自宅の庭やベランダに木花を植える	33.3%	緑化のための募金をする	16.7%
	40歳代	自宅の庭やベランダに木花を植える 参加したくない	32.7%	緑化のための募金をする	14.3%	身近な緑地や河川の保全活動	8.2%
	50歳代	自宅の庭やベランダに木花を植える	40.7%	参加したくない	29.6%	身近な緑地や河川の保全活動	12.3%
	60歳代	自宅の庭やベランダに木花を植える	42.7%	参加したくない	20.2%	緑化のための募金をする	12.1%
	70歳代以上	自宅の庭やベランダに木花を植える	39.2%	参加したくない	22.9%	緑化のための募金をする	9.3%
居住区	第1地区	自宅の庭やベランダに木花を植える	31.0%	参加したくない	27.6%	身近な緑地や河川の保全活動	13.8%
	第2地区	自宅の庭やベランダに木花を植える	37.1%	参加したくない	27.2%	緑化のための募金をする	10.8%
	第3地区	自宅の庭やベランダに木花を植える	43.8%	参加したくない	21.9%	身近な緑地や河川の保全活動	9.6%
	第4地区	自宅の庭やベランダに木花を植える	41.8%	参加したくない	24.0%	緑化のための募金をする	10.6%

【その他の記載】

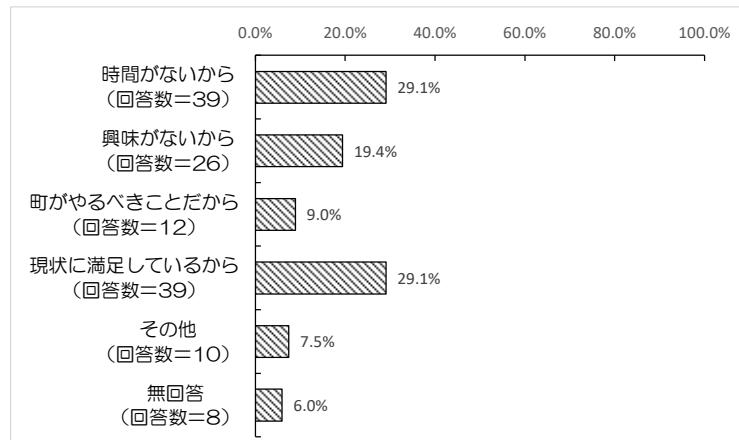
- ・自宅で野菜を作る。
- ・足が悪いので参加できない。
- ・高齢のため参加できない。

問33 問32で「6」と回答した方にお聞きします。

参加したくない理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 時間がないから | 4. 現状に満足しているから |
| 2. 興味がないから | 5. その他 () |
| 3. 町がやるべきことだから | |

- ・参加したくない理由については、「時間がないから」とともに「現状に満足しているから」が 29.1%で最も高くなっている。
- ・性別でみると、男性では「時間がないから」が 31.8%、女性では「現状に満足しているから」が 33.9%で 1 位となっている。
- ・年齢別でみると、10 歳代、30~50 歳代では「時間がないから」が 1 位となっている。20 歳代については、「町がやるべきことだから」とともに「現状に満足しているから」、70 歳代以上では「現状に満足しているから」、60 歳代では「興味がないから」が 1 位となっている。
- ・居住地別でみると、第 2 地区では「時間がないから」、第 3 地区、第 4 地区では「現状に満足しているから」が 1 位となっている。第 1 地区では「時間がないから」とともに「現状に満足しているから」が 1 位となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		時間がないから 現状に満足しているから	29.1%	興味がないから	19.4%	町がやるべきことだから	9.0%
性別	男 性	時間がないから	31.8%	現状に満足しているから	25.8%	興味がないから	18.2%
	女 性	現状に満足しているから	33.9%	時間がないから	25.8%	興味がないから	22.6%
年 齢	10歳代	時間がないから	100.0%	-	-	-	-
	20歳代	町がやるべきことだから 現状に満足しているから	50.0%	-	-	-	-
	30歳代	時間がないから	45.5%	現状に満足しているから	36.4%	興味がないから 町がやるべきことだから	9.1%
	40歳代	時間がないから	62.5%	現状に満足しているから	37.5%	-	-
	50歳代	時間がないから	50.0%	興味がないから	29.2%	現状に満足しているから	12.5%
	60歳代	興味がないから	32.0%	現状に満足しているから	24.0%	町がやるべきことだから	12.0%
	70歳代以上	現状に満足しているから	34.6%	興味がないから	19.2%	時間がないから 町がやるべきことだから	9.6%
居住 区	第1地区	時間がないから 現状に満足しているから	37.5%	興味がないから 町がやるべきことだから	12.5%	-	-
	第2地区	時間がないから	37.9%	現状に満足しているから	24.1%	興味がないから	19.0%
	第3地区	現状に満足しているから	37.5%	興味がないから	25.0%	町がやるべきことだから	12.5%
	第4地区	現状に満足しているから	32.0%	時間がないから	26.0%	興味がないから	18.0%

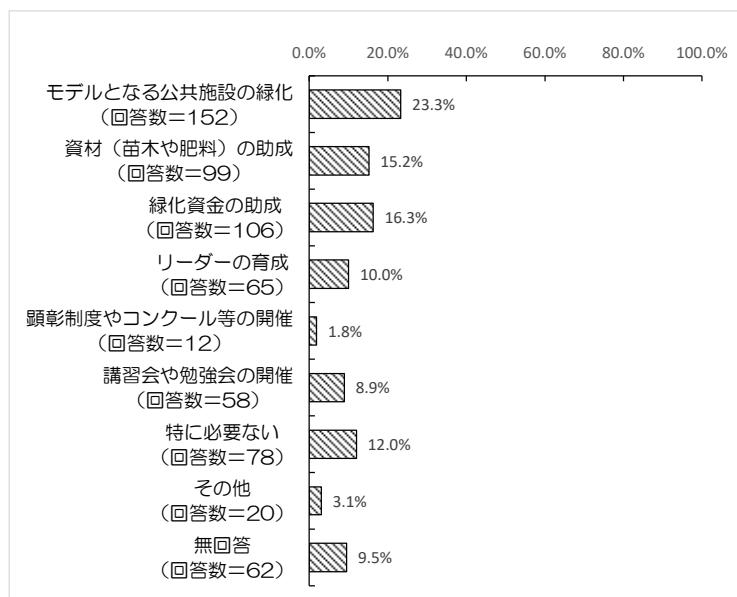
【その他の記載】

- ・老齢だから。
- ・参加したくないのでなく働いているので時間がない。
- ・交通の便が悪いから。
- ・自宅の庭の手入れで余裕がない。

問34 緑化活動や自然環境保全活動のために町としてどのような支援が必要であると思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. モデルとなる公共施設の緑化 | 5. 順位制度やコンクール等の開催 |
| 2. 資材（苗木や肥料）の助成 | 6. 講習会や勉強会の開催 |
| 3. 緑化資金の助成 | 7. 特に必要ない |
| 4. リーダーの育成 | 8. その他（ ） |

- ・緑化活動や自然環境保全活動のための町としての支援については、「モデルとなる公共施設の緑化」が 23.3%で最も高く、ついで「緑化資金の助成」が 16.3%、「資材（苗木や肥料）の助成」が 15.2%となっている。
- ・性別でみると、男女ともに1位が「モデルとなる公共施設の緑化」、2位が「緑化資金の助成」となっている。3位については男性が「必要ない」で 14.6%、女性が「資材（苗木や肥料）の助成」で 16.5%となっている。
- ・年齢別でみると、20 歳代の2位では「モデルとなる公共施設の緑化」とともに「資材（苗木や肥料）の助成」が 28.0%で1位となっている。
- ・居住地別でみると、第1地区のみ「緑化資金の助成」が 20.6%で1位となっている。2位には「資材（苗木や肥料）の助成」とともに「リーダーの育成」が 17.6%となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計	モデルとなる公共施設の緑化	23.3%		緑化資金の助成	16.3%	資材（苗木や肥料）の助成	15.2%
性別	男性	モデルとなる公共施設の緑化	22.6%	緑化資金の助成	15.6%	特に必要ない	14.6%
	女性	モデルとなる公共施設の緑化	24.6%	緑化資金の助成	17.7%	資材（苗木や肥料）の助成	16.5%
年齢	10歳代	モデルとなる公共施設の緑化	40.0%	緑化資金の助成 リーダーの育成 講習会や勉強会の開催	20.0%	-	-
	20歳代	モデルとなる公共施設の緑化 資材（苗木や肥料）の助成	28.0%	緑化資金の助成	12.0%	リーダーの育成 顕彰制度やコンクール等の開催 特に必要ない	8.0%
	30歳代	モデルとなる公共施設の緑化	44.4%	資材（苗木や肥料）の助成	16.7%	緑化資金の助成 特に必要ない	13.9%
	40歳代	モデルとなる公共施設の緑化	25.9%	緑化資金の助成	15.5%	リーダーの育成	13.8%
	50歳代	モデルとなる公共施設の緑化	24.2%	資材（苗木や肥料）の助成	19.2%	緑化資金の助成	16.2%
	60歳代	モデルとなる公共施設の緑化	22.1%	緑化資金の助成	20.0%	資材（苗木や肥料）の助成	13.8%
	70歳代以上	モデルとなる公共施設の緑化	19.9%	緑化資金の助成	15.5%	資材（苗木や肥料）の助成	14.1%
居住区	第1地区	緑化資金の助成	20.6%	資材（苗木や肥料）の助成 リーダーの育成	17.6%	講習会や勉強会の開催	14.7%
	第2地区	モデルとなる公共施設の緑化	25.2%	緑化資金の助成	16.7%	資材（苗木や肥料）の助成	14.2%
	第3地区	モデルとなる公共施設の緑化	17.6%	緑化資金の助成	15.4%	リーダーの育成	14.3%
	第4地区	モデルとなる公共施設の緑化	25.1%	資材（苗木や肥料）の助成	16.6%	緑化資金の助成	16.2%

【その他の記載】

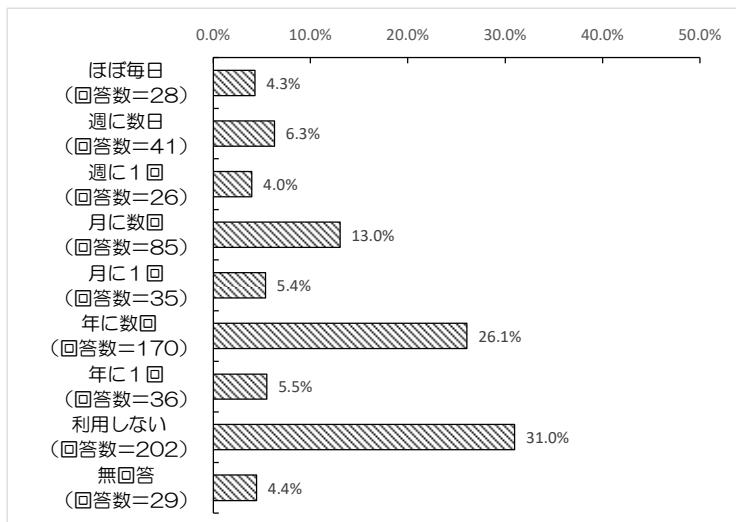
- ・シルバー人材を活用した草刈りの助成。
- ・土砂災害、倒木を防ぐような施設。
- ・緑を増やすよりも観光客を増やすための取り組みを考えることが優先なのかなと思います。

問35 あなたは、公園をどれぐらい頻度で利用しますか。

次の中から、あてはまるものを1つ選んでください

- | | | |
|---------|---------|-------------------|
| 1. ほぼ毎日 | 4. 月に数回 | 7. 年に1回 |
| 2. 週に数日 | 5. 月に1回 | 8. 利用しない ➤ 【問37へ】 |
| 3. 週に1回 | 6. 年に数回 | |

- 公園の利用頻度については、「利用しない」が 31.0%で最も高く、ついで「年に数回」が 26.1%となっている。
- 性別でみると、男性は「年に数回」が 28.6%、女性は「利用しない」が 36.0%で1位となっている。
- 年齢別でみると、10歳代では「月に数回」、20歳代、70歳代以上では「年に数回」、40~60歳代では「利用しない」が1位となっている。30歳代については「年に数回」とともに「利用しない」が1位となっている。「ほぼ毎日」という回答については30歳代が 13.9%で3位となっている。
- 居住地別でみると、第1地区では「年に数回」が 47.1%、第2地区、第3地区、第4地区では「利用しない」が約3割で1位となっている。

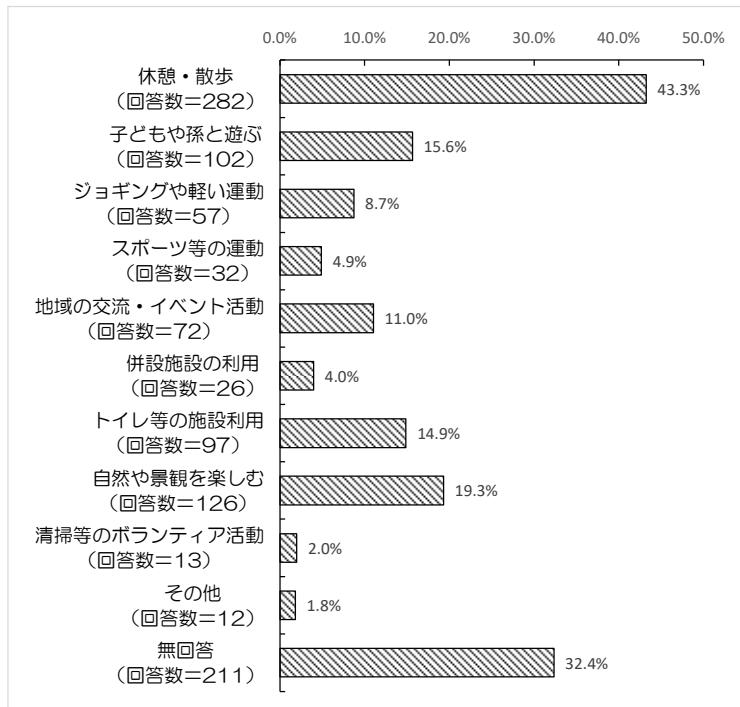


		1位	比率	2位	比率	3位	比率
性別	総計	利用しない	31.0%	年に数回	26.1%	月に数回	13.0%
	男性	年に数回	28.6%	利用しない	25.2%	月に数回	13.6%
	女性	利用しない	36.0%	年に数回	24.0%	月に数回	12.6%
年齢	10歳代	月に数回	40.0%	利用しない	20.0%	-	-
	20歳代	年に数回	40.0%	利用しない	32.0%	月に数回	8.0%
	30歳代	年に数回 利用しない	22.2% 31.0%	月に数回	19.4%	ほぼ毎日	13.9%
	40歳代	利用しない	31.0%	年に数回	25.9%	月に数回	19.0%
	50歳代	利用しない	40.4%	年に数回	20.2%	月に数回	10.1%
	60歳代	利用しない	34.5%	年に数回	28.3%	月に数回	10.3%
居住区	70歳代以上	年に数回	27.1%	利用しない	26.7%	月に数回	13.7%
	第1地区	年に数回	47.1%	利用しない	20.6%	週に数日 週に1回 年に1回	8.8%
	第2地区	利用しない	32.9%	年に数回	26.4%	月に数回	12.2%
	第3地区	利用しない	27.5%	年に数回	23.1%	月に数回	15.4%
	第4地区	利用しない	32.0%	年に数回	23.9%	月に数回	14.3%

問36 あなたは、公園をどのような目的で利用しますか。
次のの中から、あてはまるものを3つ以内で選んでください

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 休憩・散歩 | 6. 併設施設の利用 |
| 2. 子どもや孫と遊ぶ | 7. トイレ等の施設利用 |
| 3. ジョギングや軽い運動 | 8. 自然や景観を楽しむ |
| 4. スポーツ等の運動 | 9. 清掃等のボランティア活動 |
| 5. 地域の交流・イベント活動 | 10. その他 () |

- 公園の利用目的については、「休憩・散歩」が 43.3%で最も高くなっている。
- 性別でみると、2位については、男性では「トイレ等の施設利用」が 21.9%、女性では「自然や景観を楽しむ」が 21.3%、3位については、男性では「自然や景観を楽しむ」が 17.3%、女性では「子どもや孫と遊ぶ」が 15.6%となっている。
- 年齢別でみると、30歳代では「子どもや孫と遊ぶ」が 50.0%、40歳代では「休憩・散歩」とともに「子どもや孫と遊ぶ」が 34.5%で1位となっている。10歳代では「休憩・散歩」とともに「スポーツ等の運動」が 40.0%で1位、「ジョギングや軽い運動」が 20.0%で2位となっている。
- 居住地別でみると、2位については、第1地区では「地域の交流・イベント活動」、第3地区では「トイレ等の施設利用」、第2地区、第4地区では「自然や景観を楽しむ」が2位となっており、いずれも約2割となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		休憩・散歩	43.3%	自然や景観を楽しむ	19.3%	子どもや孫と遊ぶ	15.6%
性別	男性	休憩・散歩	43.9%	トイレ等の施設利用	21.9%	自然や景観を楽しむ	17.3%
	女性	休憩・散歩	42.3%	自然や景観を楽しむ	21.3%	子どもや孫と遊ぶ	15.6%
年齢	10歳代	休憩・散歩 スポーツ等の運動	40.0%	ジョギングや軽い運動	20.0%	-	-
	20歳代	休憩・散歩	44.0%	自然や景観を楽しむ	20.0%	スポーツ等の運動 トイレ等の施設利用	12.0%
	30歳代	子どもや孫と遊ぶ	50.0%	休憩・散歩	36.1%	自然や景観を楽しむ	22.2%
	40歳代	休憩・散歩 子どもや孫と遊ぶ	34.5%	自然や景観を楽しむ	13.8%	トイレ等の施設利用	12.1%
	50歳代	休憩・散歩	40.4%	トイレ等の施設利用	15.2%	子どもや孫と遊ぶ	12.1%
	60歳代	休憩・散歩	42.1%	自然や景観を楽しむ	18.6%	地域の交流・イベント活動	13.8%
	70歳代以上	休憩・散歩	48.0%	自然や景観を楽しむ	23.5%	トイレ等の施設利用	19.5%
居住区	第1地区	休憩・散歩	58.8%	地域の交流・イベント活動	20.6%	トイレ等の施設利用 自然や景観を楽しむ	17.6%
	第2地区	休憩・散歩	42.7%	自然や景観を楽しむ	20.7%	子どもや孫と遊ぶ	15.9%
	第3地区	休憩・散歩	47.3%	トイレ等の施設利用	17.6%	自然や景観を楽しむ	22.0%
	第4地区	休憩・散歩	41.3%	自然や景観を楽しむ	17.8%	子どもや孫と遊ぶ	18.9%

【その他の記載】

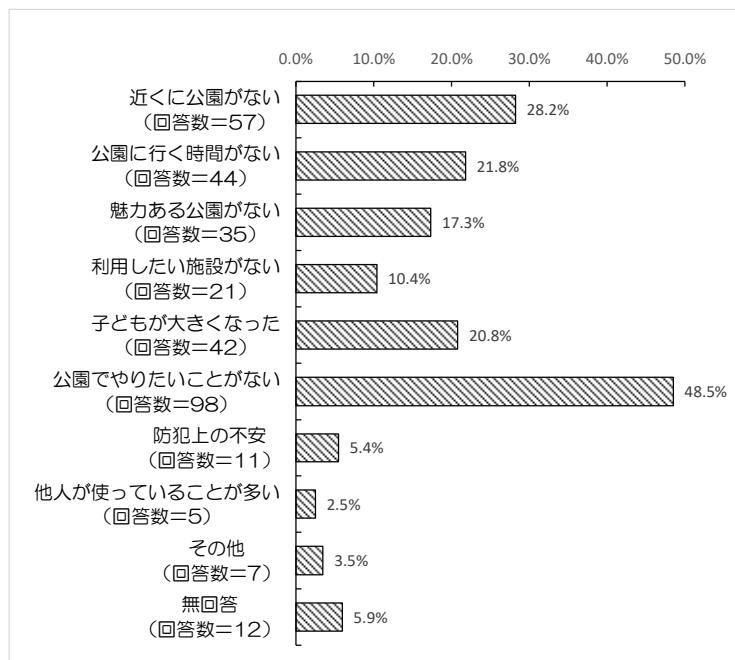
- ・ 犬の散歩。
- ・ 桜があれば花見。
- ・ 置いてある健康器具の利用。
- ・ ラジオ体操。

問37 問35で「8」と回答した方にお聞きします。

公園を利用しない理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを3つ以内で選んでください。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 近くに公園がない | 6. 公園でやりたいことがない |
| 2. 公園に行く時間がない | 7. 防犯上の不安 |
| 3. 魅力ある公園がない | 8. 他人が使っていることが多い |
| 4. 利用したい施設がない | 9. その他 () |
| 5. 子どもが大きくなつた | |

- ・公園を利用しない理由については、「公園でやりたいことがない」が 48.5%で最も高く、ついで「近くに公園がない」が 28.2%となっている。
- ・性別でみると、3位については、男性では「魅力ある公園がない」「子どもが大きくなつた」、女性では「公園に行く時間がない」でいずれも約2割となっている。
- ・年齢別でみると、20歳代では「公園でやりたいことがない」が 75.0%、10歳代では「公園に行く時間がない」とともに「公園でやりたいことがない」が 100.0%と高い割合になっている。
- ・居住地別でみると、第1地区では「近くに公園がない」が 57.1%、第3地区では「公園でやりたいことがない」とともに「近くに公園がない」が 44.0%で1位となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		公園でやりたいことがない	48.5%	近くに公園がない	28.2%	公園に行く時間がない	21.8%
性別	男 性	公園でやりたいことがない	48.7%	近くに公園がない	31.6%	魅力ある公園がない 子どもが大きくなった	19.7%
	女 性	公園でやりたいことがない	49.2%	近くに公園がない	26.7%	公園に行く時間がない	23.3%
10歳代		公園でやりたいことがない 公園に行く時間がない	100.0%	-	-	-	-
年 齢	20歳代	公園でやりたいことがない	75.0%	近くに公園がない 公園に行く時間がない 魅力ある公園がない 利用したい施設がない	25.0%	子どもが大きくなった 他人が使っていることが多い	12.5%
	30歳代	公園でやりたいことがない	62.5%	公園に行く時間がない 魅力ある公園がない	25.0%	近くに公園がない	12.5%
	40歳代	公園でやりたいことがない	44.4%	子どもが大きくなった	38.9%	近くに公園がない	33.3%
	50歳代	公園でやりたいことがない	42.5%	公園に行く時間がない	40.0%	近くに公園がない 子どもが大きくなった	30.0%
	60歳代	公園でやりたいことがない	54.0%	近くに公園がない 公園に行く時間がない	26.0%	子どもが大きくなった	22.0%
	70歳代以上	公園でやりたいことがない	44.6%	近くに公園がない	29.7%	魅力ある公園がない	21.6%
居住区		近くに公園がない	57.1%	公園でやりたいことがない	42.9%	子どもが大きくなった	28.6%
第1地区	公園でやりたいことがない	45.7%	子どもが大きくなった	24.7%	公園に行く時間がない	23.5%	
	近くに公園がない 公園でやりたいことがない	44.0%	公園に行く時間がない 魅力ある公園がない 利用したい施設がない	24.0%	子どもが大きくなった	12.0%	
	公園でやりたいことがない	55.4%	近くに公園がない	37.3%	公園に行く時間がない	21.7%	

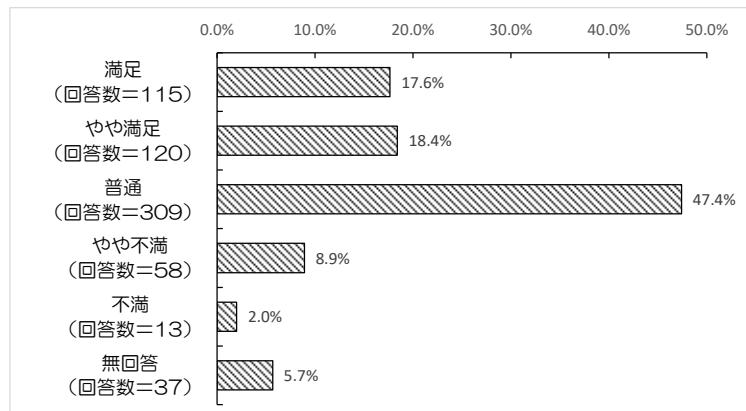
【その他の記載】

- ・体調不良。
- ・くつろげないから。

問38 あなたは、公園の量（数/配置）や、質（樹木や施設の維持・管理）、活用（イベント等の開催/飲食店等の設置）について、どう思いますか。
次の各項目ごとに、あてはまるものを選んでください。

【 A. 公園の量（数）】				
1. 満足	2. やや満足	3. 普通	4. やや不満	5. 不満

- ・公園の量（数）については、「普通」が 47.4%で最も高くなっている。満足と感じている割合は「やや満足」が 18.4%、「満足」が 17.6%で約4割となっている。不満と感じている割合は「やや不満」8.9%、「不満」2.0%で約1割となっている。
- ・性別、年齢別、居住地別でみると、どの回答者層でも「普通」が1位となっている中で、30歳代では「やや満足」が41.7%、10歳代では「普通」とともに「やや満足」40.0%となっている。2位では「満足」「やや満足」がいずれの回答者層でも約2割となっている。20歳代の3位で唯一「やや不満」が12.0%で上位になっている。

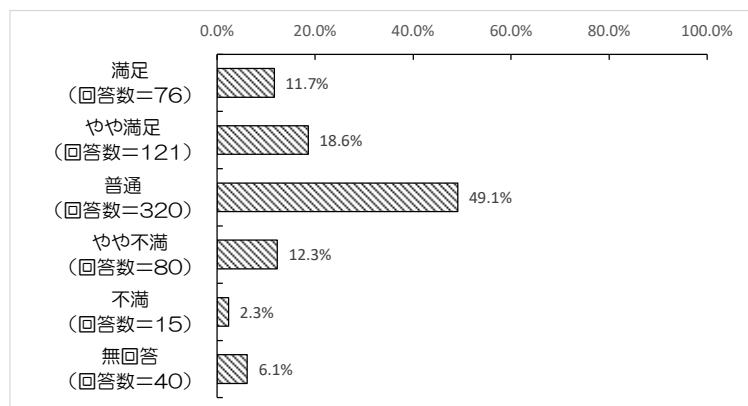


		1位	比率	2位	比率	3位	比率
性別	総計	普通	47.4%	やや満足	18.4%	満足	17.6%
	男性	普通	51.5%	やや満足	20.6%	満足	12.6%
	女性	普通	43.8%	満足	22.5%	やや満足	16.8%
年齢	10歳代	やや満足 普通	40.0%	満足	20.0%	-	-
	20歳代	普通	52.0%	満足 やや満足	16.0%	やや不満	12.0%
	30歳代	やや満足	41.7%	満足	27.8%	普通	25.0%
	40歳代	普通	55.2%	満足	22.4%	やや満足	12.1%
	50歳代	普通	45.5%	やや満足	20.2%	満足	18.2%
	60歳代	普通	45.5%	やや満足	19.3%	満足	17.2%
	70歳代以上	普通	50.5%	やや満足	15.9%	満足	15.2%
居住区	第1地区	普通	44.1%	満足	17.6%	やや満足	11.8%
	第2地区	普通	43.1%	満足	22.8%	やや満足	22.4%
	第3地区	普通	46.2%	満足	22.0%	やや満足	11.0%
	第4地区	普通	52.1%	やや満足	19.7%	満足	11.2%

【 B. 公園の量（配置）】

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

- 公園の量（配置）については、「普通」が 49.1%で最も高くなっている。満足と感じている割合は「やや満足」が 18.6%、「満足」が 11.7%で約3割となっている。不満を感じている割合は「やや不満」12.3%、「不満」2.3%で約1割となっている。
- 性別、年齢別、居住地別でみると、どの回答者層でも「普通」が1位となっている中で、30歳代では「やや満足」が41.7%、10歳代では「普通」とともに「やや満足」40.0%となっている。2位では「満足」「やや満足」がいずれの回答者層でも約2割となっている。20歳代の3位で唯一「やや不満」が12.0%で上位になっている。

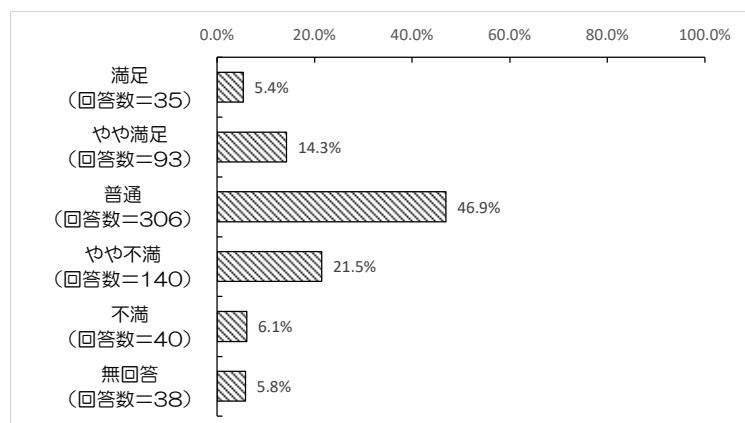


		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		普通	49.1%	やや満足	18.6%	やや不満	12.3%
性別	男 性	普通	54.5%	やや満足	16.3%	やや不満	13.6%
	女 性	普通	44.4%	やや満足	20.7%	満足	14.7%
年 齢	10歳代	やや満足 普通	40.0% 54.5%	やや不満	20.0%	-	-
	20歳代	普通	68.0%	満足	16.0%	やや満足	8.0%
	30歳代	やや満足	41.7%	普通	27.8%	満足	16.7%
	40歳代	普通	55.2%	満足	15.5%	やや不満	13.8%
	50歳代	普通	45.5%	やや満足	23.2%	やや不満	16.2%
	60歳代	普通	46.2%	やや不満	18.6%	やや満足	17.2%
	70歳代以上	普通	52.3%	やや満足	17.3%	満足	11.2%
居住区	第1地区	普通	52.9%	満足	14.7%	やや不満 不満	8.8%
	第2地区	普通	42.3%	やや満足	23.2%	満足	17.1%
	第3地区	普通	44.0%	やや満足	18.7%	満足 やや不満	12.1%
	第4地区	普通	57.5%	やや満足	17.4%	やや不満	12.0%

【 C. 公園の質（樹木や施設の維持・管理）】

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

- 公園の質（樹木や施設の維持・管理）については、「普通」が46.9%で最も高くなっている。満足と感じている割合は「やや満足」が14.3%、「満足」が5.4%で約2割となっている。不満と感じている割合は「やや不満」21.5%、「不満」6.1%で約3割となっている。
- 性別、年齢別、居住地別でみると、どの回答者層でも「普通」が1位、「やや不満」が2位となっている中で、10歳代では「やや満足」が40.0%で2位となっている。

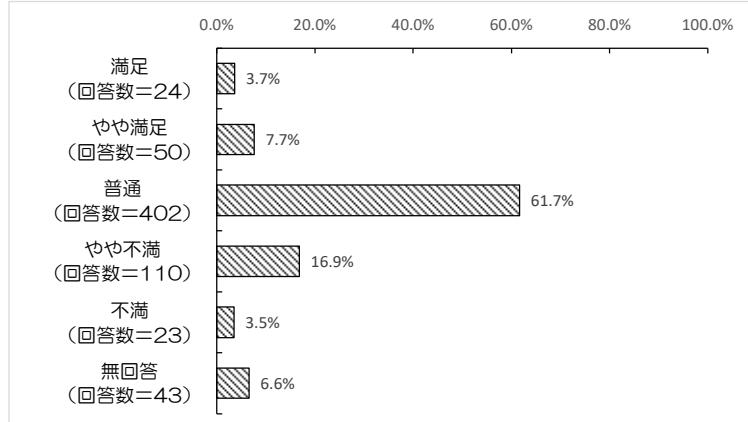


	1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計	普通	46.9%	やや不満	21.5%	やや満足	14.3%
性 別	男性	48.2%	やや不満	24.9%	やや満足	13.6%
	女性	45.9%	やや不満	19.2%	やや満足	15.3%
年 齢	10歳代	普通	60.0%	やや満足	40.0%	-
	20歳代	普通	40.0%	やや不満	36.0%	満足 やや満足 不満
	30歳代	普通	52.8%	やや不満	25.0%	やや満足
	40歳代	普通	46.6%	やや不満	27.6%	やや満足
	50歳代	普通	44.4%	やや不満	21.2%	やや満足
	60歳代	普通	46.2%	やや不満	25.5%	やや満足
	70歳代以上	普通	48.0%	やや不満	17.3%	やや満足
居 住 区	第1地区	普通	44.1%	やや不満	17.6%	満足 不満
	第2地区	普通	48.0%	やや不満	19.5%	やや満足
	第3地区	普通	37.4%	やや不満	25.3%	やや満足
	第4地区	普通	51.4%	やや不満	21.6%	やや満足

【 D. 公園の活用（イベント等の開催）】

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

- ・公園の活用（イベント等の開催）については、「普通」が61.7%で最も高くなっている。満足と感じている割合は「やや満足」が7.7%、「満足」が3.7%で約1割となっている。不満と感じている割合は「やや不満」16.9%、「不満」3.5%で約2割となっている。
- ・性別、年齢別、居住地別でみると、どの回答者層でも「普通」が1位、「やや不満」が2位となっている中で、10歳代では「不満」が20.0%で2位となっている。

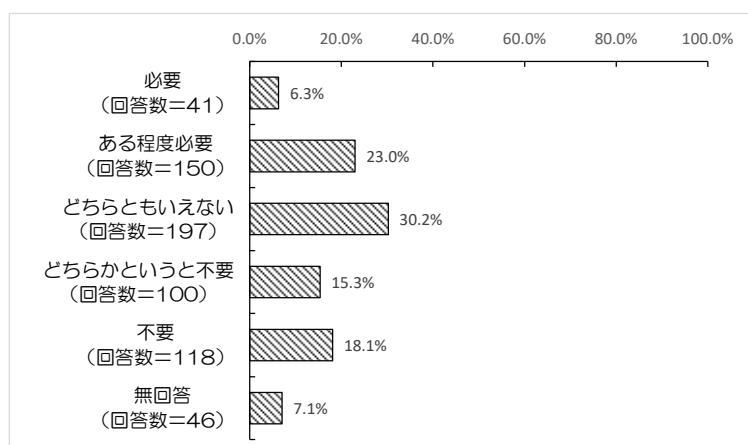


	1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計	普通	61.7%	やや不満	16.9%	やや満足	7.7%
性別	男 性	普通	63.5%	やや不満	18.6%	やや満足
	女 性	普通	60.1%	やや不満	15.6%	やや満足
年 齢	10歳代	普通	80.0%	不満	20.0%	-
	20歳代	普通	56.0%	やや不満	24.0%	満足 不満
	30歳代	普通	63.9%	やや不満	22.2%	やや満足
	40歳代	普通	56.9%	やや不満	20.7%	やや満足
	50歳代	普通	62.6%	やや不満	21.2%	不満
	60歳代	普通	62.1%	やや不満	17.9%	やや満足
	70歳代以上	普通	62.1%	やや不満	13.4%	やや満足
居 住 区	第1地区	普通	52.9%	やや不満	11.8%	やや満足
	第2地区	普通	60.6%	やや不満	17.1%	やや満足
	第3地区	普通	56.0%	やや不満	19.8%	やや満足
	第4地区	普通	66.8%	やや不満	16.2%	やや満足

【 E. 公園の活用（飲食店等の設置）】

- | | | |
|-----------|---------------|-------|
| 1. 必要 | 3. どちらともいえない | 5. 不要 |
| 2. ある程度必要 | 4. どちらかというと不要 | |

- ・公園の活用（飲食店等の設置）については、「どちらともいえない」が 30.2%で最も高く、ついで「ある程度必要」が 23.0%となっている。必要と感じている割合は「ある程度必要」が 23.0%、「必要」が 6.3%で約 3割となっている。不要と感じている割合は「どちらかというと不要」 15.3%、「不要」 18.1%で約 3割となっている。
- ・性別、年齢別、居住地別でみると、「どちらともいえない」の回答率が高くなっている中で、10 歳代は「どちらかというと不要」が 40.0%、40 歳代、第 1 地区では「ある程度必要」が約 4割となっている。



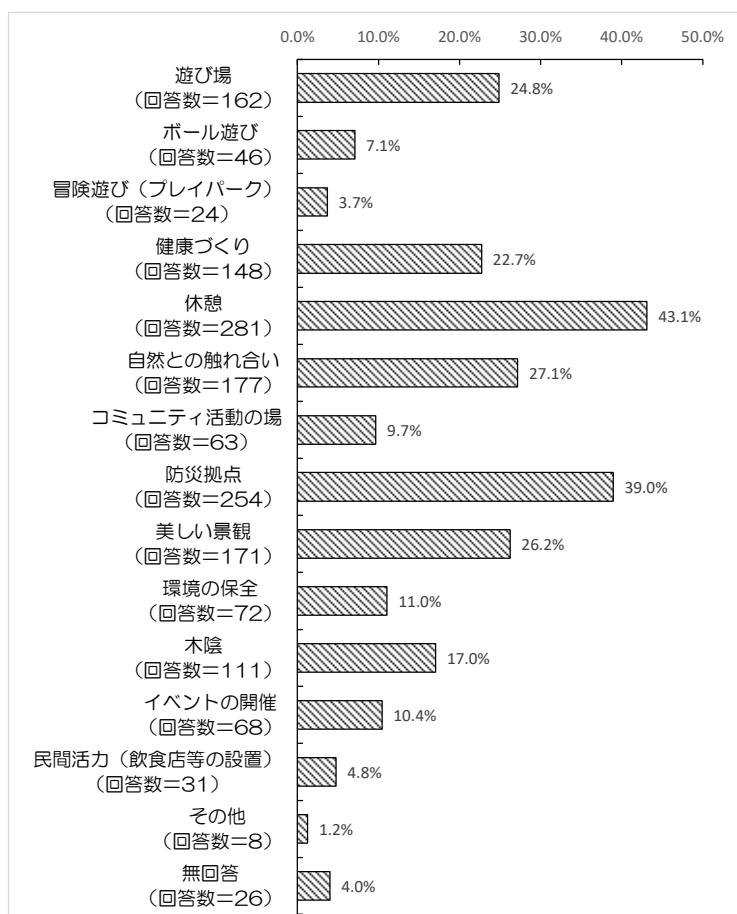
		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		どちらともいえない	30.2%	ある程度必要	23.0%	不要	18.1%
性別	男 性	どちらともいえない	29.9%	ある程度必要	23.9%	不要	19.9%
	女 性	どちらともいえない	30.3%	ある程度必要	22.5%	どちらかというと不要	17.1%
年 齢	10歳代	どちらかというと不要	40.0%	どちらともいえない 不要	20.0%	-	-
	20歳代	どちらともいえない	36.0%	ある程度必要	32.0%	どちらかというと不要 不要	12.0%
	30歳代	どちらともいえない	30.6%	ある程度必要	33.3%	不要	16.7%
	40歳代	ある程度必要	36.2%	どちらともいえない	32.8%	どちらかというと不要	13.8%
	50歳代	どちらともいえない	35.4%	ある程度必要	26.3%	不要	15.2%
	60歳代	どちらともいえない	31.0%	ある程度必要	25.5%	不要	16.6%
	70歳代以上	どちらともいえない	27.1%	不要	22.4%	どちらかというと不要	18.4%
居 住 区	第1地区	ある程度必要	38.2%	不要	23.5%	どちらともいえない	14.7%
	第2地区	どちらともいえない	32.1%	不要	22.0%	ある程度必要	19.9%
	第3地区	どちらともいえない	25.3%	ある程度必要 不要	18.7%	どちらかというと不要	16.5%
	第4地区	どちらともいえない	32.4%	ある程度必要	27.0%	どちらかというと不要	16.6%

問39 あなたが公園に特に求める機能は何ですか。

次の中から、あてはまるものを3つ以内で選んでください。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 遊び場 | 8. 防災拠点 |
| 2. ボール遊び | 9. 美しい景観 |
| 3. 冒険遊び（プレイパーク） | 10. 環境の保全 |
| 4. 健康づくり | 11. 木陰 |
| 5. 休憩 | 12. イベントの開催 |
| 6. 自然との触れ合い | 13. 民間活力（飲食店等の設置） |
| 7. コミュニティ活動の場 | 14. その他（ ） |

- 公園に特に求める機能については、「休憩」が 43.1%で最も高く、ついで「防災拠点」が 39.0%となっている。
- 性別でみると、男性では「防災拠点」が 44.9%、女性では「休憩」が 40.5%となっている。3位については男性が「遊び場」で 25.2%、女性が「自然との触れ合い」で 31.8%となっている。
- 年齢別でみると、10~40 歳代までの回答者については「遊び場」、50 歳代、70 歳代以上では「休憩」、60 歳代では「防災拠点」が 1位となっている。
- 居住地別でみると、第3位については、第1地区が「美しい景観」、第2地区が「自然との触れ合い」、第3地区が「健康づくり」、第4地区が「遊び場」となっており、いずれも約 3割となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計		休憩	43.1%	防災拠点	39.0%	自然との触れ合い	27.1%
性別	男性	防災拠点	44.9%	休憩	44.5%	遊び場	25.2%
	女性	休憩	40.5%	防災拠点	34.5%	自然との触れ合い	31.8%
年齢	10歳代	遊び場	60.0%	健康づくり 休憩 自然との触れ合い 防災拠点 美しい景観	40.0%	コミュニティ活動の場	20.0%
	20歳代	遊び場	56.0%	休憩	40.0%	防災拠点	32.0%
	30歳代	遊び場	55.6%	休憩	30.6%	自然との触れ合い	27.8%
	40歳代	遊び場	37.9%	休憩	36.2%	防災拠点	34.5%
	50歳代	休憩	44.4%	防災拠点	42.4%	遊び場	28.3%
	60歳代	防災拠点	46.2%	休憩	42.1%	美しい景観	27.6%
	70歳代以上	休憩	46.9%	防災拠点	39.4%	自然との触れ合い	29.2%
居住区	第1地区	休憩	44.1%	防災拠点	29.4%	美しい景観	26.5%
	第2地区	休憩	41.1%	防災拠点	39.8%	自然との触れ合い	29.7%
	第3地区	休憩	45.1%	防災拠点	42.9%	健康づくり	29.7%
	第4地区	休憩	44.0%	防災拠点	39.0%	遊び場	28.2%

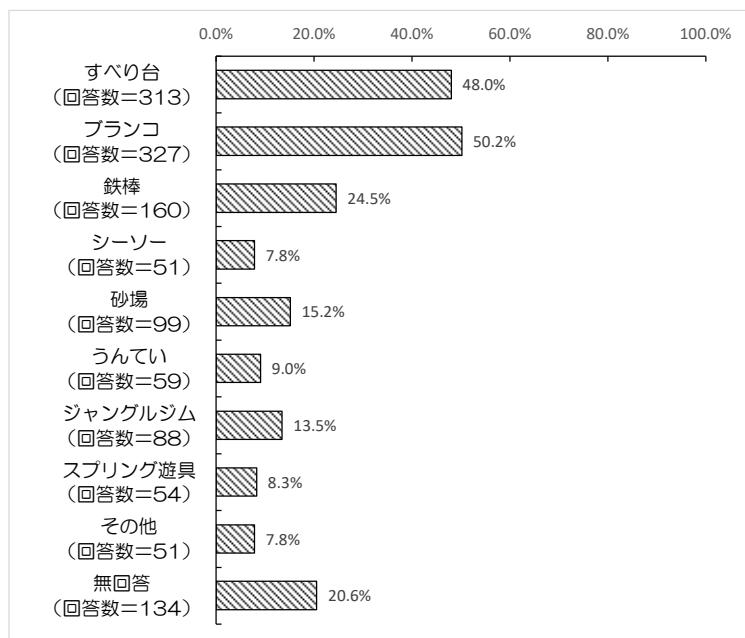
【その他の記載】

- ・犬と安心して歩ける芝生。
- ・公園にカフェなどがあれば仕事の休憩などで行く機会が増えると思う。

問40 あなたは公園にどのような遊具があるとよいと思いますか。
次の中から、あてはまるものを3つ以内で選んでください。

- | | |
|---------|------------|
| 1. すべり台 | 6. うんてい |
| 2. ブランコ | 7. ジャングルジム |
| 3. 鉄棒 | 8. スプリング遊具 |
| 4. シーソー | 9. その他() |
| 5. 砂場 | |

- ・どのような遊具があるとよいかについては、「ブランコ」が 50.2%で最も高く、ついで「すべり台」が 48.0%となっている。
- ・年齢別でみると、20~30 歳代では「すべり台」、10 歳代、50 歳代では「ブランコ」とともに「すべり台」が 1 位となっている。中でも 30 歳代が「すべり台」と回答した割合は 83.3%で非常に高くなっている。
- ・居住地別でみると、第 2 地区では「すべり台」が 52.4%で 1 位となっている。3 位については、第 1 地区、第 2 地区、第 4 地区で「鉄棒」となっており、第 3 地区については「鉄棒」とともに「ジャングルジム」が上位となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		フランコ	50.2%	すべり台	48.0%	鉄棒	24.5%
性別	男 性	フランコ	46.2%	すべり台	45.5%	鉄棒	26.9%
	女 性	フランコ	54.1%	すべり台	50.8%	鉄棒	23.4%
年 齢	10歳代	すべり台 フランコ	80.0%	砂場	40.0%	スプリング遊具	20.0%
	20歳代	すべり台	60.0%	フランコ	52.0%	スプリング遊具	28.0%
	30歳代	すべり台	83.3%	フランコ	72.2%	砂場	25.0%
	40歳代	フランコ	62.1%	すべり台	46.6%	鉄棒	31.0%
	50歳代	すべり台 フランコ	60.6%	鉄棒	29.3%	ジャングルジム	21.2%
	60歳代	フランコ	52.4%	すべり台	46.2%	鉄棒	28.3%
	70歳代以上	フランコ	39.4%	すべり台	38.6%	鉄棒	21.7%
居 住 区	第1地区	フランコ	41.2%	すべり台	38.2%	鉄棒	29.4%
	第2地区	すべり台	52.4%	フランコ	50.8%	鉄棒	24.0%
	第3地区	フランコ	44.0%	すべり台	41.8%	鉄棒 ジャングルジム	14.3%
	第4地区	フランコ	54.1%	すべり台	49.0%	鉄棒	29.3%

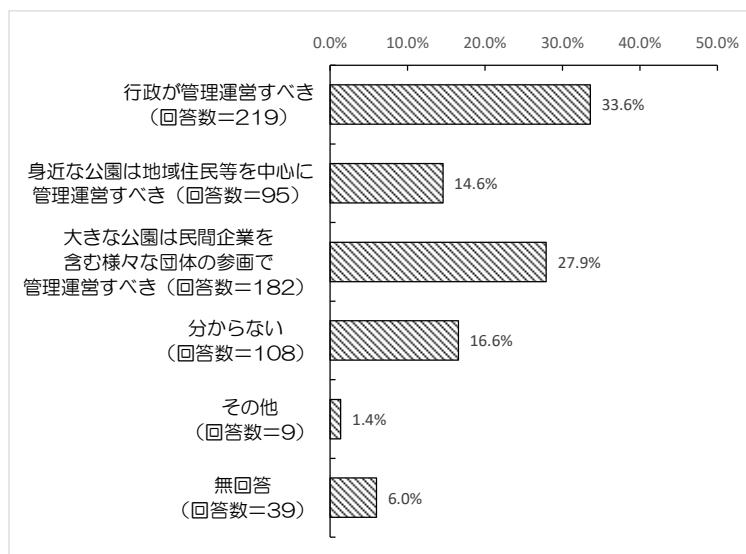
【その他の記載】

- ・バスケットゴール
- ・スケートボードができる
- ・健康器具
- ・アスレチックの大型遊具
- ・ベンチ
- ・何もない芝公園
- ・遊具がない公園も必要
- ・いらない

問41 人口減少や少子高齢化が進む中で、限られた予算で公園の維持・管理をどのようにしていけばよいと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1. 行政が管理運営すべき | 3. 大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき |
| 2. 身近な公園は地域住民等を中心に管理運営すべき | 4. 分からない |
| | 5. その他 () |

- ・公園の維持・管理については、「行政が管理運営すべき」が 33.6%で最も高く、ついで「大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき」が 27.9%となっている。
- ・年齢別でみると、10~20 歳代、60 歳代では「大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき」、30 歳代、50 歳代、70 歳代以上では「行政が管理運営すべき」、40 歳代では「行政が管理運営すべき」とともに「大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき」が 1 位となっている。
- ・居住地別でみると、第 3 地区のみ「大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき」が 25.3%で 1 位となっている。2 位については、第 1 地区では「身近な公園は地域住民等を中心に管理運営すべき」、第 3 地区では「行政が管理運営すべき」とともに「身近な公園は地域住民等を中心に管理運営すべき」が約 2 割で上位となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		行政が管理運営すべき	33.6%	大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	27.9%	分からぬ	16.6%
性別	男 性	行政が管理運営すべき	34.6%	大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	26.2%	身近な公園は地域住民等を中心に管理運営すべき	17.3%
	女 性	行政が管理運営すべき	33.9%	大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	29.7%	分からぬ	18.6%
年齢	10歳代	大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	60.0%	行政が管理運営すべき	40.0%	-	-
	20歳代	大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	36.0%	行政が管理運営すべき 分からぬ	32.0%	-	-
	30歳代	行政が管理運営すべき	44.4%	大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	38.9%	分からぬ	11.1%
	40歳代	行政が管理運営すべき 大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	37.9%	身近な公園は地域住民等を中心に管理運営すべき 分からぬ	10.3%	-	-
	50歳代	行政が管理運営すべき	36.4%	大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	31.3%	分からぬ	14.1%
	60歳代	大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	29.7%	行政が管理運営すべき	29.0%	分からぬ	22.1%
	70歳代以上	行政が管理運営すべき	33.2%	大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	21.7%	身近な公園は地域住民等を中心に管理運営すべき	19.9%
居住区	第1地区	行政が管理運営すべき	41.2%	身近な公園は地域住民等を中心に管理運営すべき	17.6%	分からぬ	14.7%
	第2地区	行政が管理運営すべき	34.6%	大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	32.9%	分からぬ	16.7%
	第3地区	大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	25.3%	行政が管理運営すべき 身近な公園は地域住民等を中心に管理運営すべき	22.0%	分からぬ	19.8%
	第4地区	行政が管理運営すべき	34.7%	大きな公園は民間企業を含む様々な団体の参画で管理運営すべき	27.4%	分からぬ	17.0%

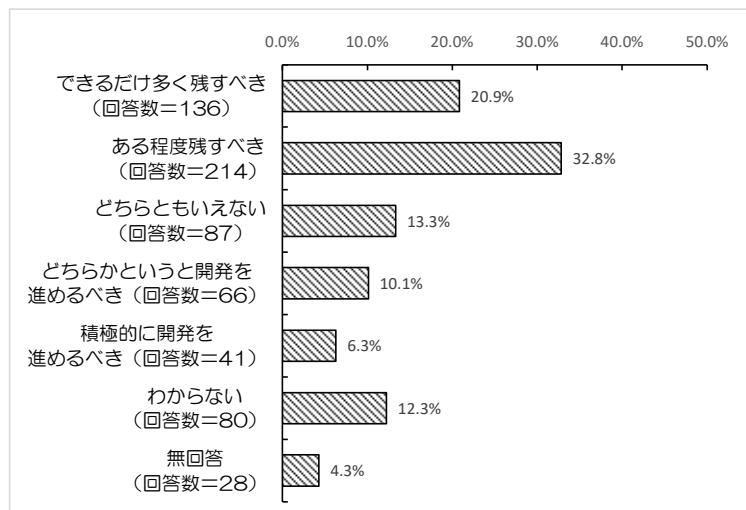
【その他の記載】

- ・寄付を募る。
- ・行政住民両方で。
- ・民間企業の運営・管理を行政が外注する。
- ・行政が管理、運営は地域住民で

問42 あなたは、湯河原町内の農地の保全と開発について、どう思いますか。
次のものから、あてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1. できるだけ多く残すべき | 4. どちらかというと開発を進めるべき |
| 2. ある程度残すべき | 5. 積極的に開発を進めるべき |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

- 湯河原町内の農地の保全と開発については、「ある程度残すべき」が 32.8%で最も高く、ついで「できるだけ多く残すべき」が 20.9%となっている。
- 性別、年齢別、居住地別でみると、どの回答者層でも「ある程度残すべき」が 1 位となっている中で、10 歳代では「できるだけ多く残すべき」「わからない」が 40.0%で 1 位となっている。2 位については、「できるだけ多く残すべき」という回答の割合が高くなっている中で、40 歳代では「どちらかというと開発を進めるべき」が 20.7%と上位になっている。



	1位	比率	2位	比率	3位	比率	
総 計	ある程度残すべき	32.8%	できるだけ多く残すべき	20.9%	どちらともいえない	13.3%	
性 別	男 性	ある程度残すべき	32.2%	できるだけ多く残すべき	21.6%	どちらともいえない	13.6%
	女 性	ある程度残すべき	33.9%	できるだけ多く残すべき	20.4%	わからない	12.9%
年 齢	10歳代	できるだけ多く残すべき わからない	40.0%	どちらともいえない	20.0%	-	-
	20歳代	ある程度残すべき	40.0%	できるだけ多く残すべき	28.0%	どちらともいえない	12.0%
	30歳代	ある程度残すべき	44.4%	できるだけ多く残すべき	19.4%	どちらかというと開発を進めるべき わからない	11.1%
	40歳代	ある程度残すべき	32.8%	どちらかというと開発を進めるべき	20.7%	できるだけ多く残すべき	19.0%
	50歳代	ある程度残すべき	35.4%	できるだけ多く残すべき	21.2%	どちらともいえない	17.2%
	60歳代	ある程度残すべき	32.4%	できるだけ多く残すべき	16.6%	どちらともいえない	15.2%
	70歳代以上	ある程度残すべき	31.4%	できるだけ多く残すべき	22.4%	どちらともいえない わからない	13.0%
居 住 区	第1地区	ある程度残すべき	29.4%	できるだけ多く残すべき	20.6%	どちらともいえない	11.8%
	第2地区	ある程度残すべき	31.7%	できるだけ多く残すべき	24.8%	わからない	12.6%
	第3地区	ある程度残すべき	37.4%	できるだけ多く残すべき	17.6%	どちらともいえない	13.2%
	第4地区	ある程度残すべき	33.2%	できるだけ多く残すべき	18.5%	わからない	13.9%

■これから湯河原町のまちづくりに関して、ご意見やご要望等があればお聞かせください。

【公園、樹木、植栽の管理についての記載】

- ・街路樹を背の高い木に変えて木陰ができるようになったらいいと思います。現在の枝たれ梅は歩いていて顔に当たって不快な思いを何度もした。
- ・今でも十分緑がきれいだが、枯れ木、倒木は撤去してほしい。
- ・ウォーキングをしていますが、ゆっくりほっと出来る公園が無いです。緑を見たり、沢山の花を見て癒されたいです。歩道には湯河原ということで梅を植えていると思うのですが、1年中青々としている緑の木のほうがいいと思います。もっと花を増やして欲しいです。駅前にも花壇があればいいと思います。町中緑と花でいっぱいに出来るといいですね。
- ・公園を多く利用する機会があります。ゴミやガラス片が落ちているのが気になる。公園周辺の駐車場の整備があれば良いと思う。桜木公園ではサルを良く見かけるので怖い。公園内のベンチもある。歩道の路面が非道でベビーカーなどが危険。公共施設の開放があれば嬉しい。

【雑草、落ち葉、山林、河川、海浜の管理についての記載】

- ・山に囲まれ緑が多いのでもっと整備してほしい倒れそうな木もある。
- ・川沿いにアジサイなど植えて梅以外のシンボルを作る。
- ・道路沿いの草は景観だけでなく、道も塞いでいる箇所もある。役場に言って対応してもらつたこともあるが、迅速ではなく、半年たってもそのままです。忙しいとは思いますが、町民の声を聞いて頂きたい。湯河原に移住して5年だが、大変気に入っている。若い世代が住みたがる町にしてほしい。
- ・川のゴミをなくすこと。千歳川のゴミが凄くてゴミ溜めのようなあります。

【農地の管理についての記載】

- ・農業者への協力。農産物の地産地消を積極的に行い農家世帯が一定の収入を得れる仕組みを作る（低所得が多く農業だけでは生活できない）。
- ・緑の大きな部分を担っているみかんの畠は高齢化が進んでいるため、手放す人が増えている。放置すると緑が減るだけでなく、作業環境が悪くなる。早めに適切なルール強化をしておくべき。

【現状の維持、向上についての記載】

- ・現在持っている町の自然を生かすことも考えて検討したほうがいいと思います。でも、駅商店街に緑がなく道だけが一本通っているというはどうかと思う。花を植えるとか、街路樹を整備するとかミカンの木を植えるとか工夫はあるのではないか。
- ・湯河原の美しい景観が守られることを望む。夜の公園は暗すぎて怖い。線路沿い等の雑草が凄くて見通しが悪いので危険。ウォーキングルートを整備しても町内外にアピールしないともったいない。

【その他】

- ・幕山公園だけでなく一年を通してイベントをして観光客を増やしていく。
- ・エリアによって防災に活かせる緑化整備をお願いしたい。